

No. 11 >>> Contents

●提携支援センターから

- 世界遺産を目指す富岡製糸場と社会人一年生への準備
 日本蚕糸絹業開発協同組合 事務局 土井 芳文 ①
- 京都の繭・純国産の日常品への道
 織道楽 塩野屋 代表 服部 芳和 ④
- 充実するジャパンシルクセンターの純国産絹製品コーナー
 社団法人 日本絹業協会 ⑧
- 提携支援センター活動日誌 No. 11 ⑫
- 純国産絹マーク使用許諾について（平成 21 年度第 5 次分） ⑬
- 純国産絹マークの仕掛け人は語る③
 株式会社やまと 商品部 マーチャンダイザー 長野 英幸 ⑮

●今月の話題

- シルクのまちづくり市区町村協議会が発足
 京丹後市企画総務部企画政策課 課長補佐 高橋 尚義 ⑮

●国内情報

- 水に濡れても縮まない絹織物
 京都市産業技術研究所 繊維技術センター 研究担当補佐 吉村 央
 研究員 真下 美紀 ⑮
- 埼玉県ブランド繭「いろどり」について
 埼玉県農林部生産振興課 園芸・特産担当 長嶋 聡 ⑳

●トピックス

- 国内産地情報、海外情報（中国） ㉔

●横浜開港とシルク貿易

- 開港当初ごろの各地の生糸 シルク博物館 元部長 小泉 勝夫 ㉔

- イベント情報 ㉔
- 登録コーディネーター一覧 ㉔
- 純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧 ㉔
- 蚕糸関係博物館一覧 ㉔
- 蚕糸関係団体ホームページ一覧 ㉔
- 統計資料 ㉔

（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）

世界遺産登録を目指す富岡製糸場と 社会人一年生への準備

日本蚕糸絹業開発協同組合

事務局 土井 芳文

世界遺産登録を目指す「富岡製糸場と絹産業遺産群」

去る1月30日(土)、31日(日)の2日間、富岡製糸場世界遺産伝道師協会（群馬県企画部世界遺産推進課内）が、一日数万人の買い物客で賑わうイオンモール高崎のセントラルコートで、「富岡製糸場と絹産業遺産群（群馬県内10ヶ所）」の世界遺産登録をめざす体験型の伝導（広報）キャンペーンを行いました。

前述の施設史跡等が世界遺産の暫定リストに記載されて3年が経過し、本登録に向けて地元群馬県ではかなり関心が高まってきている中で企画されたもので、会場では伝道師10数名により各施設史跡のパネル展示解説、座繰りや機織り体験、繭クラフト実習の指導が行われました。

「純国産絹マーク」のPR

私も伝道師の一人ですので、会場で当組合が開発（絹小沢株式会社が企画製造）し



写真1 伝道師によるシルク展示・PR

た群馬県のオリジナル生糸を使用した製品をはじめ「純国産絹マーク」の使用許諾を受けた製品20点余りを展示PRに努めました。

最盛期に比べて養蚕農家戸数、収繭量共に1%以下になってしまった日本の蚕糸業。とは言え、今でもその50%近くを担っている群馬県。その県内でも特に養蚕が盛んであった土地柄、来場者のかなりの人が「実家で昔、養蚕をやっていて子供の頃手伝いをした」「おじいちゃん、おばあちゃんが養蚕をやっていた」「近所に桑畑が

たくさんあった」「農閑期に座繰りや機織りをやっていた」等々。展示されている5齢のカイコを懐かしそうに自分の手のひらに乗せてみたり、我が子に触らせたり、会場は終始にぎわいを見せていました。

そんな人達に、「きものの原料の生糸は、今では大部分が海外からの輸入品で国産のものは1%も無いのですよ。そして、この貴重品になってしまった国産の生糸を使って生産された絹製品には、2年前から生産履歴が表示された『純国産絹マーク』が付いていますよ。」と説明すると、ほとんどの人が驚いた様子で一様に「知らなかった。着物の原料は全部日本のものだと思っていた。」という答えが返ってきました。

まだまだ養蚕の名残が色濃く残る土地柄かもしれませんが、改めて『純国産絹マーク』の幅広いPRの必要性を知らされた想いでした。



写真2 カイコに興味を示す子どもたち

「純国産絹製品」ができるまでの説明

このような一般消費者向けの展示広報活動の場では、当社の主力商品である裏

絹、白生地といった後染め商品の場合は、「生機^{キバタ}」を来場者に見てもらい、紙のようにゴワゴワしていて一見化学繊維のように見える「生機」が「精練加工」することによって、セリシン・油分・汚れ等が取り除かれ、誰が見てもわかる「絹」になるのですよ。」と、製造工程を説明するように心掛け、絹製品への理解を深めてもらう努力をしています。

また、当組合等で企画する取引業者向けの研修会では、営繭が進み回転族に入った繭がいる養蚕農家、繭から生糸へ、今は数少なくなってしまった製糸工場の現場、様々な工程を経て生糸から織物へと姿を変えさせる織物工場、そして最後の化粧直しをする精練工場と、純国産の裏絹づくりの現場を理解してもらい、販売の現場で役立てていただいています。

蚕糸絹業提携支援緊急対策事業に

取り組んで2年

平成20年2月、蚕糸絹業提携支援緊急対策事業が実施され当組合も群馬県のオリジナル生糸使用の製品を対象とした「国産シルク研究会」を立ち上げ2年が経過、まもなく最終の3年目を迎えます。そして一年遅れて21年度からは、春嶺×鐘月・錦秋×鐘和といった普通蚕品種の「国産シルク研究会 普通蚕種部会」を発足させ、こちらは2年目を迎えることになります。

「国産シルク研究会」「同、普通蚕種部会」共に、製品の原料生糸が「群馬県のオリジナル生糸」か「普通品種の生糸」かの違いで、

構成メンバーが若干違うものの、事業主体・生産活動・広報活動・販売活動は全く同じということで、経費等の按分はそれぞれの取り扱い繭量に応じて計算しているのが実情です。

因みに、『純国産絹マーク』の使用許諾の認定を受けた件数は「国産シルク研究会」が13件16商品、「同 普通蚕種部会」が7件9商品で、本誌2009年3月号で紹介しました以降の開発製品は次の2点（写真3と4を参照）です。

社会人一年生への準備

この緊急対策事業が発足して半年、その

年の9月リーマンショックに端を発した世界的な景気後退による消費の冷え込み、特に不急不要の高額品に属する呉服業界への影響は非常に大きいものでありました。

高木支援センター長の本誌年頭所感にもありました、なにが何でも卒業しなければならない「高校3年生」。この高校生活最後の新年度を迎え、卒業したその後には、花の「大学生活」はなく厳しい社会人一年生の現実が待っていることを肝に命じてこれからの一年を提携グループ関係者が力を合わせ準備を進めていかなければと考えています。



綾高貴 八掛地 2009 (H.21) / 6～
群馬県産の生糸を強撚度の駒糸にし、先染めした後、製織した綾八掛地。織の風合い・光沢などに優れ、磨耗堅牢度が高い。(写真3)



まゆの心 長襦袢地 2009 (H.21) / 6～
群馬県産生糸を原料に、伝統ある丹後の織物工場で製織。京都の老舗で染整理加工した風合いある長襦袢地。(写真4)

どい よしふみ
日本蚕糸絹業開発協同組合 事務局

京都の繭・純国産の日常品への道

織道楽 塩野屋

代表 服部 芳和

なぜ今、純国産なのか

織道楽 塩野屋では 2005 年の秋から京都の養蚕農家 3 軒との間に提携契約を結び、純京都産の繭を原料に京都ブランドの絹製品を開発し直販してまいりました。今年で 5 年を迎えます。絹織物のメーカーが材料から製品直販売まで行うという独自の展開をしておりますが、その理由と特徴は品質の高さの追求と高価格の防止にあります。目の届く範囲での材料確保と物創りが今後のメーカーには絶対必要条件との判断からの取り組みです。もちろん外国製の絹糸であっても品質の高い物もありますが、身土不二・一物全体が自然の法則と理解しているから国産に限定しています。遠くのものをしばしば取り寄せるのは必要以上にすべきではなく、近くのもので十分楽しく生きて行くほうが自然の摂理に則っているという考えです。

京都西陣は織の職人技が高度に進化して分業專業の世界を作り出しました。それは 20 世紀の物質文明の追求から生まれた大量生産・大量消費の中で行き着いた結果でした。本質的に手技では大量生産は困難です。それを分業という方法で、ある程度の生産拡大を図ったのです。絹に関する多品種のメーカーが密集する西陣は、或る程度の機械化を伴いましたが、見事に手技を維持し職人の世界を拡大したのです。



写真 1 貴重な撚糸工場

これまでの経緯

しかしながら民族衣装的な考え方の呉服業界という場所に絹産業の拡大を求めたツケが、数量よりも単価上昇を目指してしまい、今ではその生産は激減しています。(現在の呉服のマーケットは、3,500 から 4,000 億円市場と言われ、産地メーカー、卸、小売りの販売額、生産額共にピーク時の三分の一から五分之一に縮小している。)職人技というレベルだけでは高級高額化は難しいと見て、流通は作家という嘘のブランドに多くは走ってしまったのも痛手でした。

とある対談記事から

1966 年と言うと昭和 41 年ですが、その時に「蚕糸の光」19 巻 1 号の座談会で森英恵さんと安達瞳子さんを招いて「日本の絹を語る」と題した提言が有る機関からなされている事実が有ったことを偶然に知りました。



写真 2 昭和 41 年「日本の絹を語る」記事

当時売り出し中のデザイナー森英恵さんは、「風合いが足りぬ日本のシルク」と表

現し、西洋の絹に比べ全く質が悪いと酷評しています。当時の業界は着物の需要に供給が間に合わない状態でしたから研究不足と指摘されても改良することを真剣に考えませんでした。日本では、昭和 33 年までは輸入なしの国産一辺倒でした。その後に中国製など外国産の絹が輸入され始め、その輸入拡大期を迎えています。また、安達瞳子さんは高すぎる着物に警鐘を鳴らしています。着物から離れて国際的に通用する絹をつくるべきだとの苦言。もう少し彼女らの意見を真摯に受け止めるべきでした。

真のブランドとは何か

純国産を維持発展させるには真のブランドが必要です。ここでブランドとは何かが大切なのかを話したいのですが、まず①出所の表示、②品質保証、③宣伝・広告、④意匠効果、⑤消費者を錯覚から守る、の五つだと思います。決して生産者を守るためにブランドがあるのではなく、消費者を守るために有るのだということです。消費者は消費することが目的ではなくて物を使い切るという消費責任を果たしてもらいたいと、メーカーは商品を保証する意味でブランドを育てるのです。

ところが昭和 41 年頃とは違う要因が現在には出てきました。それは環境破壊です。絹の世界もこの六つ目の要因をクリアしないと真のブランドは成立し得ないし純国産も成り立たないと考えています。この環境保全型絹ビジネスが 21 世紀の方向性だと見て、京都で最後となっている 3 軒の農家

との提携をして塩野屋はブランド創りを目指したのです。

その提携の基本要素は限りなく無肥料・無農薬・無消毒・無化学薬品を目標としています。塩野屋では、桑園の管理から養蚕・製糸・撚糸・精練・染色・製織をそれらのコンセプトで組み立てている最中です。今後の新規養蚕農家は無肥料・無農薬の農家が最適であり、環境保全型ビジネスのモデルと成る近道に養蚕農家を据えて農業の復興を果たさなければなりません。大量生産大量消費は昔の考え方であり、蚕の命を尊ぶ少量養蚕農家こそが望まれます。

去年の11月に私はフランスに行くチャンスに恵まれました。西洋の絹事情は如何なるものかとフランスを見るに付け思ったことは、文化の違いです。東西の融合が叫ばれていますが、単なる物の交換では融合になりません。日本で絹が今も着物として衣生活に存続している理由は、日本の文化や価値観から出た特徴・特異性を着物が持っているからです。森英恵さんが言おうとしていたのもこの価値観の違いから来る良し悪しであり、西洋の気候風土・歴史文化を理解し、それを押さえないと彼らに日本の絹製品を購買する行動は促せません。

一方、日本の消費者は絹と麻に対する理解が歴史的に深く、潜在的な需要を過去に秘めていたことから、日常品への絹商品の開発には一番適した国柄と再認識され自分の中で理解できました。外国にも通用する絹の研究が急がれると言いながら、高額品への道をひた走る呉服の方向性を実は安達瞳

子さんは日本の絹の未来として一番心配していたのだと思います。日本の絹の歴史を勉強する事が、現在こそ未来への出口を見つけることになる最善の近道と確信しております。



写真3 西陣絣織行程見学ツアー

塩野屋の提案するコンセプト

塩野屋では福知山の養蚕農家の見学ツアーや西陣の職人技の工程見学ツアーなどを年間10回以上は実施しています。一般の方に現場を見て頂き、絹文化を無くさない方向に生産者も消費者もみんなで支え合うきっかけとして模索を続けています。桑の木オーナーズ倶楽部や塩野屋着物会員など消費者にも理解を求めています。小学校でも蚕の楽しい飼育など教育の場でも話しております。

「小さな生産」→「長い消費」→「意味のある生き方」が提案したい塩野屋のライフスタイルのコンセプトです。日本絹業協会の発行する「純国産絹マーク」も商品に添付し、国産である履歴を明確にしてブランドの確立に努力して行く所存です。

20 世紀は G の世紀としてゲーム・ゴールド・ゲイン・グッズが合言葉でしたが、21 世紀は H の世紀ですから、ハート・ホープ・ヒーリング・ヘルス・ハッピーなどがキーワードになります。日本の絹が世界に貢献できる事が有るとするならば、それ

らのキーワードを満たす商品を創り上げる事が大切だと考えられます。そのモデルとなるべく京都方式の養蚕や商品開発プロセスが示さねばならない役割は大きく、今後も努力致しますので皆様よろしくご協力お願い致します。

はっとり よしかず
織道楽 塩野屋 代表



写真 4 カイコに興味津々の小学生



写真 5 西洋見聞する服部代表

「充実するジャパンシルクセンターの純国産絹製品コーナー」 ～純国産絹製品の紹介と需要拡大を目指して～

社団法人 日本絹業協会

我が国の蚕糸・絹業を持続的な産業として存続させるためには、繭・生糸の生産から最終製品に至る加工まで一貫して国内で行われた純国産絹製品を「国産ブランド」として確立し、輸入原料を使用した絹製品と区別された市場を構築することが必要です。

そのため、(社)日本絹業協会は、東京・有楽町の蚕糸会館 1 階のジャパンシルクセンターに昨年 5 月に常設の純国産絹製品の展示・P R コーナーを開設しましたが、今回新たに、同コーナーに(財)大日本蚕糸会(以下「蚕糸会」という。)の協力によりジオラマ(立体模型)と映像システムを設置・導入し、2 月 2 日その除幕式を蚕糸会と共催で開催しました。

純国産絹製品の展示・P R コーナーは、群馬県の日本絹の里、京都・西陣の西陣織会館にも設置されています。日本絹の里は日本の繭・生糸の生産者の拠点として、西陣織会館は染織、織物関係者への展示拠点

として、ジャパンシルクセンターは首都圏・東京地区の絹製品消費者への情報発信の拠点として設置されたものです。

このような充実した純国産絹製品の展示・P R コーナーの設置により、蚕糸・絹業提携システム構築に向けた幅広い情報資料、純国産絹マークの紹介、純国産絹製品の展示を行うことができるようになりましたので、紹介します。



挨拶する高木大日本蚕糸会会頭



ジオラマ除幕式
(左から高木会頭、春日農水省対策室長、千葉経産省
繊維課長補佐)

○ジオラマと映像システムのお披露目除幕式

除幕式は、主催者のあいさつの後、来賓を代表して春日健二農林水産省生産局特産農産物対策室長から祝辞を頂き、多数の来賓を代表して農林水産省、経済産業省、大日本蚕糸会の高木賢会頭理事が蚕糸・絹業提携システム構築の成功を誓って、除幕式を行いオープニングを祝いました。

○ジオラマ（立体模型）

ジオラマの設置は、一般消費者に蚕糸・絹業提携システムや純国産絹製品の製作等がわかりやすく紹介できるように充実したものです。

ジオラマは、川上の養蚕農家・製糸業者と川下の絹加工業者・絹流通業者が提携してグループで純国産絹製品の製造、販売を行うことを人形や建物、生産品のミニチュアなどで表現しているものです。

左上の養蚕農家ではカイコを飼育して、できた繭を製糸工場に運びます。製糸業者

は、繭を生糸にして、絹加工業者に運びます。絹加工業者は絹製品を作り、絹流通業者へ運びます。絹流通業者は消費者に純国産絹製品を販売します。中央には川が流れていますが、この模型では川に見立てて純国産の生糸が使われています。

○映像システムの内容

繭・生糸の生産者から川下の機屋、染色業者、流通業者、消費者が純国産絹製品（国産ブランド）の製品製作・販売に至る提携グループから産出される純国産絹製品を広く普及、啓発することが重要であり、その手段としてジオラマ（立体模型）のほか提携システムを説明する映像装置の設置を行ったものです。

映像システムによる画像提供は、消費者に純国産絹製品を創出する提携システム構成者それぞれの役割等のイメージについて、繭生産の作業風景、生糸のできる工程、製糸の作業風景を取り入れ、具体的に分かりやすく解説します。

具体的には、

- 1 蚕糸・絹業提携システムとは何か
- 2 繭から絹製品ができるまで
 - ①繭ができるまで
 - ②生糸ができるまで
 - ③絹製品ができるまで
- 3 絹の文化を次世代に～蚕糸・絹業提携による純国産絹ブランドの確立～として、蚕糸・絹業提携グループの事例紹介
 - ①”絹を未来に”プラチナボーイ研究会（銀座もとじ）

②白繭細 1 号プロジェクト開発チーム
(マルシバ)

を紹介しています。

○純国産シルク企画製品展

併せて、センターでは2月2日(火)から4日(木)まで、平成21年度川上・川下(蚕糸・絹業)連携による純国産絹製品開発試

作品および純国産絹マーク使用許諾者による表示対象絹製品の展示を行いました。

○今後のジャパンシルクセンターの活用

今後、常設の純国産絹製品展示・PRコーナーでは、純国産絹製品の展示の充実と純国産絹製品のモニター販売等、映像システムでは、純国産絹製品を製造する絹業産



ジャパンシルクセンターに設置したジオラマ、映像システム

地、絹工房の紹介等、さらなる情報発信に邁進していきたいと思っております。また、絹業協会では百貨店との連携企画や、地域イベントへの出展などさまざまな期間限定

企画を行っています。全国で開発された純国産絹製品を直接見て、触れて、知っていただくことができます。ジャパンシルクセンターをますます活用して下さい。

純国産シルク企画製品展出展者及び主要展示品名

出展者	主要展示品名	出展数
【新製品試作出展者】		
(有) シンセイ	スカーフ	6
(株) ひろせ	生地	2
東北撚糸 (株)	着尺、帯	2
新啓織物	帯地 (無地・江戸更紗・秩父解し織)	3
多摩シルクライフ 21 研究会	ニット、小袖、洋装、間仕切	6
たてよこの会	きもの、服地、着尺、帯、ショール	13
工房「香染」	着尺、道行コート、ブラウス、スカーフ、ニット	7
【純国産絹製品出展者】		
草木染工房山村	ストール、帯	3
柳染織工房	黒地眼鏡織九寸	1
(株) 龍工房	帯ヅ	5
丸池藤井 (株)	色無地	5
(株) 北尾織物匠	しずおり名古屋帯	3
山音 (株)	色無地かぐやきぬ	12
第一衣料 (株)	きわみ絹色無地 (冬・夏)	3
(株) 猪井	お誂え白生地、お誂え無地サンプル	6
合計 延べ 15 者		76



和装、洋装などさまざまな純国産絹製品

支援センター活動日誌No. 11 (H22.1.1 ~ H22.2.28)

年月日	活 動 内 容 等
22.1.21	シルク工房型の繭・生糸需要者との蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に関する情報連絡会（東京都有楽町 蚕糸会館）
22.1.28	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明会等（埼玉県秩父市）
22.2.2	ジャパンシルクセンターにおけるジオラマオープニングセレモニー（東京都有楽町 蚕糸会館）
22.2.2 ~ 22.2.4	純国産シルク企画製品展（東京都有楽町 蚕糸会館）
22.2.3	（社）日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会（東京都有楽町 蚕糸会館）
22.2.3	福島県蚕業技術員専門部会（福島県福島市 J A 福島ビル）
22.2.12 ~ 22.2.13	福島県養蚕セミナー及び真綿業者との打合せ（福島県福島市 J A 福島ビル）
22.2.17	栃木県養蚕研修会（栃木県宇都宮市 栃木県青年会館）
22.2.17	長野県における蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループ構築等の会議（長野県諏訪市）
22.2.23	純国産絹製品展示コーナー打合せ会議（東京都有楽町 蚕糸会館）
22.2.24 ~ 22.2.25	山形県養蚕研修会及び提携グループ構築等の打合せ（山形県天童市）
22.2.25	蚕糸・絹業提携システム全国推進協議会（東京都有楽町 蚕糸会館）
22.2.26 ~ 22.2.27	宮城県養蚕研修会（宮城県白石市）

純国産絹マーク使用許諾について（平成 21 年度第 5 次分）

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 21 年度第 5 回審査会を 2 月 3 日（水）に開催しました。今回、7 件（うち、新規の申請 3 件、製品の追加申請が 1 件、製品・製品数量の追加申請が 1 件、生産数量の追加申請が 2 件）から申請があり、審査委員会で審査した結果下記のとおり 7 件に対し、2 月 10 日（水）付けで純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。

この結果、純国産絹マーク使用許諾者は合計 113 社となります。（本誌の使用許諾者及び主な絹製品名一覧参照）

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社世きね 代表者名 関根 辰男 東京都中央区銀座 5-8-9 (担当者：関根辰男) TEL 03-3573-5911 表示者登録番号 111	後染反物 (色無地)	60 反	制作企画 (株) 柴孫 蚕品種 あけぼの 繭生産 J A みなみ信州 管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 織 羽賀恒明 染 色 (有) 大竹商店
株式会社西陣まいづる 代表者名 舞鶴 一雄 京都市上京区五辻通大宮西入五辻町 3-9 (担当者：舞鶴一雄) TEL 075-441-0001 表示者登録番号 112	袋帯 (金銀系 5% 以上)	150 本	制作企画 京都きもの友禅 (株) 繭生産 上原高好、木村努 製 糸 碓氷製糸農協 染 色 にしき染色 (株) 製 織 自社
奥順株式会社 代表者名 奥澤 順 茨城県結城市結城 1-2-2 (担当者：奥澤 順) TEL 0296-33-3111 表示者登録番号 113	先染反物 (結城紬) 帯 (結城紬)	100 反 50 本	繭生産 J A 新ふくしま 管内養蚕農家 真綿生産 (有) 関根商店 手紬糸生産 奥順工業 (有) 染 織 自社
(製品の追加) 有限会社カシワギ 代表者名 柏木 幹弘 山梨県富士吉田市大明見 308 番地 (担当者：柏木 幹弘) TEL 0555-22-0270 表示者登録番号 095	スカーフ ストール ブランケット ネクタイ シャツ スーツ	20,000 枚 10,000 枚 500 枚 5,000 枚 1,000 枚 500 枚	企 画 (株) 山桜 繭生産 山梨県養蚕農家 製 糸 松澤製糸所 製 織 自社 縫 製 高野縫製所

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(製品・製品数量の追加) 株式会社銀座もとじ 代表者名 泉二 弘明 東京都中央区銀座4-8-12 コチワビル3階 (担当者: 青江良和) TEL 03-5524-3222 表示者登録番号 011	八掛 お召し 白生地 うち 後染反物 結城紬 帯地	30 枚 20 反 107 反 (30 反) 10 反 20 本	蚕品種 プラチナボーイ 繭生産 千葉県、茨城県養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 芋田織物、江口機業(株) 近賢織物(有)、樋口(株) 上野豊成 染 色 (株) 富田染工芸、三好一彩 染 織 工芸藤山
(生産数量の追加) 株式会社まるため 代表者名 小池 正司 長野県長野市南千歳一丁目3番地5 (担当者: 小池正司) TEL 026-227-5291 表示者登録番号 078	胴裏絹 (トルマソ加工) (ハ°-リ-加工)	300 枚 30 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 蚕品種 ぐんま 200、世紀二一 繭生産 群馬県養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 丸進機業(株)、(有) 長島織物 精練加工 (有) 江島屋染工場、 キヌテック(株)
(生産数量の追加) 株式会社千總 代表者名 西村 總左衛門 京都市中京区三条通烏丸西入る (担当者: 俵 武司) TEL 075-211-2531 表示者登録番号 001	後染反物 (色無地)	250 反	繭生産 岩手県内養蚕農家 青森県八戸市養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 美雲織物(株)、加賀グンゼ(株) (株) 竹林 染色加工 自社

次回審査会の予定は4月6日(火)です。申請される方は審査会の10日前までに申請書を提出してください。

純国産帯で、消費者の要望に応え、差別化を図る

株式会社やまと 商品部
マーチャンダイザー 長野 英幸

今、純国産絹マークは113社（平成22年2月10日現在）承認されています。それぞれは、その中心となる企業などにより本マークを適正に管理されています。今回、純国産絹マークの承認がおり、帯を販売している「きもののやまと」のキーパーソンにお話を伺った。その3回目。

「きもののやまと」の都内駅ビルのインショップ。多くのお客が気軽に立ち寄られ、同店員に声をかけられます。「半襟はどこにありますか？」

このお店、気軽に入店しやすく、コーディネートを重視しています。お客は絶えることなく寄られ、店員の対応も適切に素早くされていました。

この店で、「きもののやまと」商品部マーチャンダイザーの長野さんにお話を伺いました。

純国産絹マークを付けた「帯」の制作について、次のように説明。

「純国産絹使用の着尺」などを実験販売し、好評を得てきました。これなら、自社

製品として、「純国産絹で帯」の制作をしようと考えたわけです。」と。

企画・制作に約1年間の期間をかけ、昨年12月には帯が出来上がり、正月から店



都内駅ビル内のインショップきものの店



純国産絹マークをPRする長野マーチャンダイザー

頭に並び始めました。「お客様の評判もよく、手ごたえ十分です。」と長野さんも自信を持っています。

この純国産絹製品となる帯は、吉祥文様の2種類。仕立代込み価格で159,000円／本。品質重視で、お客様の要望に応える商品ですので、リーズナブルな価格に設定したといいます。この帯、裏・表の柄が異なる全通柄で、二柄のリバーシブルで使用可能としています。このような仕様の帯を10～30歳代向けと40～60歳代向けの年代に合わせ、2種類用意。購入者には、刺繍で名入れ（帯裏の垂先にひらがなまたはカタカナ4文字以内）の無料サービスも実施して、これも好評といいます。

純国産絹製品を社員教育で徹底

やまとは、帯を販売するに当たり、純国産絹製品などの社員教育を重視しました。「他の商品とどこが異なるのか?」「生産履歴はどのように表示してあるのか?」など、お客様の疑問に応えられるよう具体的な内容

を記載した「商品パンフレット」を作成。希望されるお客にも配布する態勢としました。

また、同社が、この帯制作にあたり苦勞した点は、「金銀糸」の割合。制作当時、帯の純国産絹製品としての金銀糸の割合は、5%以内が条件（現在は、緩和措置が講じられています）下で、きらびやかさを表現する方法として、純国産生糸を金色に染めて使用するなど工夫し、5%以下にして、販売可能となりました。

「今は、金糸・銀糸の割合が緩和され、より良い商品企画が出来るようになりました。大変ありがたいことです。」と長野さんは語ります。

この帯は、堅調に販売されています。「社員教育もあり、お客様には内容を説明し、十分に理解いただいて販売しています。」と続けて話されました。『しなやかで、染色性がよく、光沢がある』ことが純国産絹のPRのフレーズとなっています。

当然のこと、海外の良質な生糸と品質的には大差がありませんが、社員がお客様に直接「日本の絹」を説明。納得されてから購入いただくこととしています。

一方、この帯を購入されたお客様からは、「日本の養蚕農家や繭生産が大きな減少となっていることに驚き」、「絹商品が全部日本の絹だと思っていた」などの声をいただいたといいます。このような中、「日本の絹を応援したい」との意見もありました。

このように、商品を十分に説明して販売することが重要と判断されています。

品質の確保のため、厳重な検品体制

やまとでは、商品販売時に自社検品を行い手渡しすることとしています。この純国産絹の帯については、さらにもう一度、製造元の機屋に送り、慎重に検品する態勢となっています。製造者の厳しい目で検査し、お客様に満足してもらうためです。

同社では、気軽に商品を見ていただけるように、プレゼンテーションを工夫し、着物を多くに人に触れてもらい、着物ファン

が少しでも増えることを願っています。長野さんら店員の皆さんが力を合わせて頑張ります。売上げの2～3割程度は、着物の初心者のお客様であることがそれを物語っているといえます。

「今回の帯の制作にあたり、金銀糸の割合に多少苦劳しましたが、これからもより良い帯を創っていこうと思っています。」と長野さんは、決意を新たにしています。



日本を愛でる「やまと」オリジナル純国産袋帯

株式会社 やまと会社概要

創	業	1917 年（大正 6 年）
設	立	1947 年（昭和 22 年）
資	本	金 2 億円
売	上	高 241 億円（2009 年 3 月期）
従	業	員 数 1,230 名（男 480 女 750）
店	舗	数 きもの専門店「やまと」 131 店（38 都道府県） （2009 年 4 月 1 日現在）

シルクのまちづくり市区町村協議会が発足

—シルク産業の活性化とシルク文化を活用した魅力ある地域をめざします—

京丹後市企画総務部企画政策課

課長補佐 高橋 尚義

わが国のシルクに関連する産業や歴史・文化を持つ市区町村が連携し、このほど「シルクのまちづくり市区町村協議会」が発足いたしました。1月26日には、東京都港区において設立総会を開催し、会長には京都府京丹後市（中山泰市長）を選出。協議会は今後、活動目的の「シルク産業の活性化」や「シルク文化を活用した魅力ある地域づくり」に向け、会員市区町村がお互いに智恵を出し合い、将来を展望した対応を行っていくこととしています。

本稿では、シルクのまちづくり市区町村協議会の設立の背景と、事務局担当として考える今後の動きについて述べてみたいと思います。

1. シルク産業とシルク文化の現状

養蚕、製糸、織物、染色など、シルクに関わる産業は、地域経済の中で重要な役割を果たし、地域の生活や風土に根付いた産業として、地域とともに発展してきました。同時に、悠久の歴史の中でこれら産業が培った技術により生み出される製品は、地域の文化を育むと同時に、わが国文化の根幹にも大きく関わり、地域の価値や日本の品格を伝えるものとして、産業・文化の両面で貢献しているところです。特に、これらを代表するのが、みなさんご承知のとおり、日本人の心とも言われる「きもの」です。

しかしながら、社会・生活環境が急激に変化する中で、今日においては養蚕農家の

減少により国産繭生産量も激減し、国内の製糸業もわずかに残るのみ。また、きもの離れなどによって、白生地生産量も年々減少の一途を辿り、色鮮やかな染色製品の製造業も低迷の状況にあります。とりわけ、わが国のシルク産業は、和装市場の縮小に大きく影響されているところがあり、和装業界に位置づけられる産業は総じて、新規開発や設備投資ができないほどの経営事情の中で多くの事業者がもがいているのが実状です。新規人材の参入もなく、人材も高齢化するばかり。人的にも物的にも枯渇化が進んでいる状況にあります。またそのためにも、匠の技術の継承が危ぶまれ、ますますマイナスのスパイラルが働いていると

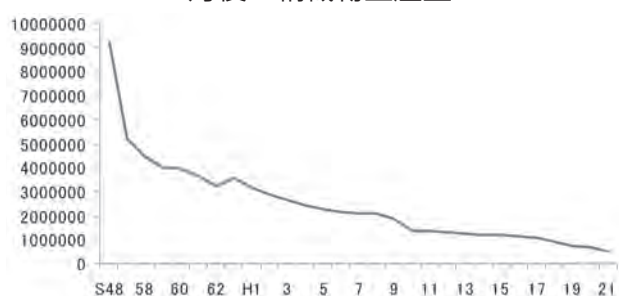
ころです。

これらの情報が、地域のシルク産業発展の支障になっていることに加え、近代化・平準化の中でわが国固有の誇りある文化の風化さえも危惧される原因ともなっています。

2. 市区町村としての産業支援のあり方

私のまちは、京都府の最北端の丹後半島に位置する人口約6万人のまちですが、ご承知のとおり、「丹後ちりめん」という和装用白生地国内最大産地です。かつては年間生産量が約1,000万反という生産量を誇っていましたが、現在は年間約50万反の生産規模にまで縮小し、最盛期に比べるとわずか5%の生産量となっている状況にあります。またこうした状況は、産地内事業者においても日々の暮らしに直結しているだけに非常に深刻な状況となっているところ です。

丹後・絹織物生産量



ところが、丹後産地の生産量は縮小していますが、現在でも国内の絹糸量の概ね3分の1を消費している産地であり、今現在においてもシルクの国内最大消費地である

とともに、最大の生産地という状況にあります。そのため、地域を担当する行政としても、地域の産業として将来にしっかり引き継いでもらえるようサポートし、地域の将来とわが国の文化を守り育てていかなければならないと考えています。

こうした現状にあるシルク産業の課題解決を図るには、やはり、事業者自身が消費者の立場からシルクを再認識し、また生産者の立場からその付加価値をいかにして高めるかという思考を持ち、試行錯誤を持続して繰り返す取り組みが必要です。とりわけ、消費者のニーズは短期的にめまぐるしく変わり、市場がグローバルに動いていく現代の経済情勢の中にあっては、いわゆる、事業者自身の精神的なイノベーションがなによりも大切で、それを事業者と日々関わっていける距離にある市区町村が「いかにして支えるか」が求められているものと考えています。

そのためには、連携がキーワード。事業者間や産地間の連携に向け市町村がコーディネーターとなること。そのための情報交換をはじめとした連携が重要と認識しているところです。同時に、市区町村と国・都道府県が連携することも重要です。地域の産業や文化を守り育てるには、まずは行政の役割として、関係する行政それぞれが横のつながりをしっかり持ち、それぞれが智慧を出し、足りない部分をお互いが補完し合い、相互に高め合う中で役割を担うことが大切です。それはそもそも、市区町村が単独で支援するといっても、現状で持って

いる資源・財源や能力には限度があり、また時代も変化している中で、これまでと同じような支援政策では効果が望めないと考えるからです。

3. シルクの可能性を活用し、協議会を設立

一般的に、シルク製品は、養蚕、製糸、織物、染色など多段階の工程の中で、それぞれに長年にわたって極められた究極の技術が、完璧なまでに調和され完成されます。そのものづくりは、技術者同士の厚い信頼と連携の上に成り立ち、日本が誇るものづくりの原点。また世界に目を転じれば、シルクは、かつてシルクロードという長大な交易ルートを創造し、産業を活性化するとともに東西文化の交流を育んでいます。

すなわちシルクは、単なる繊維素材ではなく、歴史的にも経済社会の様々な断面を相互に発展へ導く核となっているものであり、今後においてもシルクを通じた「連携」「国際展開」「産業活性化」「文化交流」などによって、様々な分野の未来に多くの示唆と可能性を与えてくれるものと考えています。

こうしたシルクの持つ意味を改めて認識し、「シルク産業の活性化」や「シルク文化を活用した魅力ある地域づくり」に向け、シルクに関連する産業や歴史・文化を持つ市区町村が連携して設立されたのが「シルクのまちづくり市区町村協議会」です。

1月26日には、東京都港区の泉ガーデンコンファレンスセンターにおいて設立総会を開催。総会には、会員市区町村のほか、

本協議会のオブザーバーとして経済産業省から間宮繊維課長、菅原中小企業庁新事業促進課長、西村伝統的工芸品産業室長、また農林水産省からも、春日特産農産物対策室長に出席いただきました。

設立発起人を代表して中山京丹後市長からは、「シルクはわが国の尊い宝であり、古くから産業・文化を育み世の中の発展に貢献してきたが、シルク産業の現状は厳しく多くの課題を抱えている。シルクに関係する自治体や関係者が連携し、力を結集してシルク産業の活性化などに取り組む必要がある」とあいさつ。またオブザーバーを代表して経済産業省の間宮繊維課長からは、「日本の産業ひいては日本全体のシンボルともいえるシルクをみんなで盛り上げていくことは、繊維産業のみならず日本全体を元気にする大きなきっかけとなる。産地間の連携の力を大いに発揮して日本のシルクのポテンシャルを引き出すチャンス。協議会の取り組みが地域や地方の活性化につながることを期待する。二人三脚で頑張っていきたい」とご挨拶をいただきました。

総会議事では、協議会の規約、平成22年度事業計画等を承認。また、協議会役員の選任においては、京都府京丹後市（中山泰市長）を会長に選出。副会長には山形県鶴岡市、福島県川俣町、群馬県富岡市、長野県岡谷市、石川県金沢市、京都府与謝野町、愛媛県西予市の7市町。監事には、山梨県西桂町、京都府宮津市の2市町が選出されました。

■協議会の活動（規約から抜粋）

協議会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる活動を行う。

- (1) シルク産業の活性化及びシルク文化の振興に向けた政策研究及びこれに関連する課題等の研究
- (2) シルク産業・シルク文化に関する政策提言
- (3) シルク産業・シルク文化の魅力の積極的啓発
- (4) 会員相互の交流、支援、連携等を図るための活動
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な活動

4. 協議会の今後の活動

協議会は今後、会員自治体間でシルク産業・文化に関わる諸課題を共有するとともに様々な情報交換を行い、オブザーバーや顧問からも、本協議会の取り組みに必要なご指導やご協力をいただく中で、日本のシルク産業の活性化やシルク文化の振興に向けた政策と課題の研究、シルクの魅力発信などに取り組んでいく予定です。

また、協議会活動を通じて、シルク関連産業における新たな需要の掘り起こしを図るとともに、産地間で連携し、付加価値のあるシルク関連製品の開発につなげていくなど、シルク産業の振興・発展に向け展開していくことを予定しています。

事務局は当面、京丹後市が担当し、関連団体や事業者との連携を深め、また活動を通じて国内のシルク産業全体の振興・発展を担い、シルクの文化を活用したまちづくりの推進を図ってまいりたいと考えています。

具体的には、シルクという産業に従事する事業者の方へのご支援、またシルク文化を活用し、いかに自分のまちの魅力を高めていくかというこの2点が、大きな柱とな

ります。そのため、産業と文化というのみで、単に個別に物事を考えていくのではなく、「環境」「観光」「福祉」「医療」「教育」などといった分野とコラボレートさせていく智恵が求められているところであり、さらに、会員市区町村同士で同じ目的を持ち、または一つの事業を複数の市区町村で合同して手がけていくといった自治体の連携が重要なポイントとなります。

幸い、経済産業省や農林水産省からも担当課長にオブザーバーとしてご参画いただく環境も整い、また業界関係者との連携、さらには顧問として、デザイナーやコーディネーター、海外通商に長けた方や和装に長けた方など、様々な分野の方にもご指導・ご協力いただける環境の素地がこの協議会が設立されたことにより出来たと考えています。

国内のシルク産業は、現在においても和装という意味合いが非常に強いわけですが、和装にとらわれることなく、その壁を乗り越えることこそ大きな進歩があると考えています。そのため、洋装やインテリア、産業資材などの分野を中心に活動していくことをはじめ、医療、福祉、環境、教育な



協議会会長に選出され、きもの姿で挨拶する中山泰京丹後市長

どの新たな分野との連携や展開を進めていくこと、さらには国内市場ではなく海外市場に向けた展開を積極的に図ることなどを活動の中心に据えて、シルク産業の活性化の実現と、シルク文化を活用した地域振興を達成して参りたいと考えています。

5. 終わりに

いずれにしても、本協議会の会員要件は、養蚕・製糸・織物・編物・染色整理・縫製・組紐などの製造業はもとより、シルク製品の流通・販売といった卸・小売業が営まれている市区町村も対象としています。またシルク 100%のみでなく一部にシルクを用いている産地なども対象です。いわゆる、シルク産業の発展に少しでも貢献し、またシルク文化の活用を志す市区町村であれば会員としてご加入いただけますので、できる限り多くの市区町村にご加入いただき、会員相互の連携バリエーションを増やしていきたいと考えています。

またシルク産業の活性化やシルク文化の振興を担っておられる団体をはじめ、ご興味のある事業者・個人の方とも積極的に情報交換し、また随時に有益と思われる情報提供を行っていきたいと考えていますので、本協議会活動にご協賛いただける旨のご連絡をいただければとありがたく存じます。

本協議会活動へのご協賛、またはお問い合わせ等ございましたら、下記の事務局宛にご一報いただきますようお願いいたします。

〒 629-3101

京都府京丹後市網野町網野 353 番地の 1
シルクのまちづくり市区町村協議会
事務局 宛

(京丹後市商工観光部商工振興課内

高橋・永島)

TEL: 0772-69-0440

E-mail: info@silkroad-japan.org

■ 22 年度事業内容

- ①総会、幹事会の開催
- ②協議会ホームページの開設
- ③メールマガジンの発行
- ④情報誌の発行

※国・自治体の支援制度、シルク関連産業の業況、産地紹介、デザイナー紹介、学校紹介、学術・技術等紹介、先進的事例紹介など。行政関係者や事業者はもとより、一般消費者にも受け入れられる情報誌の作成

- ⑤会員、顧問、協賛団体の組織拡大

(参考資料)

シルクのまちづくり市区町村協議会

(平成 22 年 2 月 1 日現在)

■会員（25 団体）

1	山形県鶴岡市	10	新潟県小千谷市	19	京都府宮津市
2	山形県長井市	11	新潟県南魚沼市	20	京都府京丹後市
3	山形県白鷹町	12	石川県金沢市	21	京都府与謝野町
4	福島県川俣町	13	山梨県富士吉田市	22	愛媛県西予市
5	茨城県結城市	14	山梨県西桂町	23	鹿児島県鹿児島市
6	栃木県足利市	15	長野県岡谷市	24	鹿児島県奄美市
7	群馬県富岡市	16	長野県駒ヶ根市	25	鹿児島県龍郷町
8	東京都新宿区	17	滋賀県長浜市		
9	新潟県十日町市	18	京都府京都市		

◇役 員

会 長 京都府京丹後市（市長 中山 泰）

副会長 山形県鶴岡市・福島県川俣町・群馬県富岡市・石川県金沢市・長野県岡谷市・京都府与謝野町・愛媛県西予市

監 事 山梨県西桂町・京都府宮津市

■オブザーバー

農林水産省生産局生産流通振興課特産農産物対策室長

経済産業省製造産業局繊維課長

経済産業省製造産業局伝統的工芸品産業室長

経済産業省製造産業局デザイン・人間生活システム政策室長

経済産業省中小企業庁経営支援部新事業促進課長

■顧問（敬称略）

岡田 茂樹	日本ファッションプロダクト協会	代表理事
酒井 美和子	（有）GBカンパニー	代表取締役
笹島 寿美	着装コーディネーター・帯研究家	
清水 早苗	ジャーナリスト／クリエイティブ・ディレクター	
須藤 玲子	株式会社布取締役	
永森 達昌	オフィス・ナガモリ代表	
早坂 伊織	着物伝承家	
福井 健二	K.FUKUI PERSONAL OFFICE&EA	主宰
松田 正夫	（独）中小企業基盤整備機構近畿支部近畿支援事務局	プロジェクトマネージャー

■協賛団体（順不同）

（財）大日本蚕糸会・（社）日本生糸問屋協会・中央蚕糸協会・碓氷製糸農業協同組合・鶴岡織物工業協同組合・福島県絹人織織物構造改善工業組合・小千谷織物同業協同組合・山梨県絹人織織物工業組合・滋賀県絹人織織物工業組合・丹後織物工業協同組合・本場大島紬織物協同組合・本場奄美大島紬協同組合・全国染色協同組合連合会・全国染織連合会・京友禅協同組合連合会・京都工芸染匠協同組合・東京ネクタイ協同組合・（社）日本絹業協会・日本織物中央卸商業組合連合会・（社）全日本きもの振興会・（社）全日本きものコンサルタント協会・（財）シルクセンター国際貿易観光会館（シルク博物館）

たかはし ひさよし
京丹後市企画総務部企画政策課 課長補佐

水に濡れても縮まない絹織物

<< J S T 平成 20 年度シーズ発掘試験 委託研究 >>

絹織物の高機能化を目的とした環境調和型防縮加工技術に関する研究

京都市産業技術研究所 繊維技術センター

研究担当課長補佐 吉村 央

研究員 真下 美紀

1 はじめに

和装品によく用いられる絹織物は独特の風合い、文様を出すために様々な織物組織で製織されており、これらの中にはよこ糸に強撚糸が用いられているちりめんなどがあり、湿度などの影響で比較的縮みやすい織物となっています。繊維製品の縮みを防ぐ手法としては、樹脂加工がありますが、綿などとは異なり、絹は樹脂加工による効果があまり期待できません。

そこで、当センターでは、化学薬品を一切用いずに絹織物に防縮性を付与する方法を検討し、確立しましたので、水に濡れても縮まない着物を試作することにしました^{1、2)}。

2 絹の防縮処理装置の設計と試作

この加工は生地には張力をかけた状態で飽和蒸気による処理を行う必要があります、実用化するためには加工時における生地の最適な固定方法及び張力の付与方法が最大の課題です。たて、よこ方向に張力をかけることができ、なおかつ新たな機器導入コスト

を抑えるために、一般的に使われている蒸熱装置を利用することを本研究の大きな目標としました。しかし、アタッチメントに固定後に生地を引っ張るには非常に大きな力が必要であり、機械的強度の観点からとても困難です。そこで、“水張り”という技法を用いて生地をたて、よこ方向に先に数%伸ばし、その生地をアタッチメントに取り付けた後、水分を付与することにより、生地が縮もうとする力を張力として利用する手法を用いることにしました。これを実施するために、たて方向への張力がかかるビーム型アタッチメントを考案し、試作しました。

ビーム型アタッチメントは、スチール製架台に巻き取りドラム、トルクモータ、円盤型テンション装置が装備されたものです。巻き取りドラム部は、布帛を巻き付けるパンチング筒が取り外し可能になっており、布帛を巻き付けた後に取り外して蒸気処理を行えるものになっています。写真1、2がアタッチメントの外観となります。

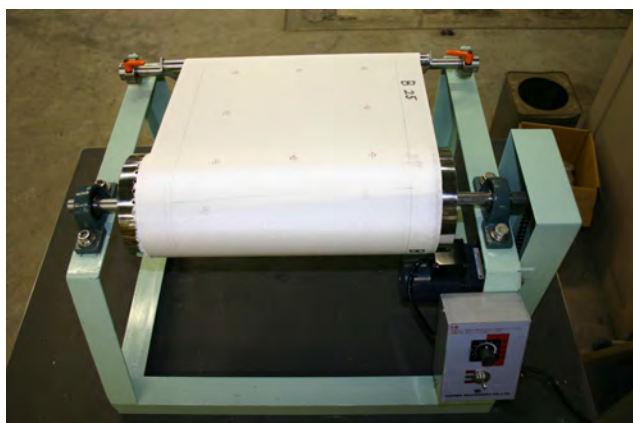


写真1 ビーム型アタッチメント

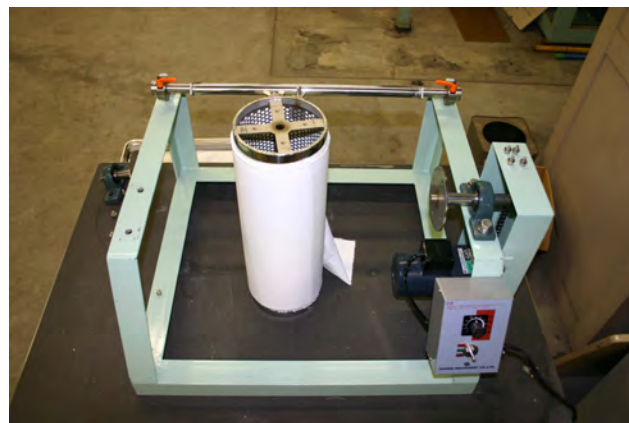


写真2 ビーム型アタッチメント（脱着時）

3 試作装置による加工

3.1 試料

絹古代ちりめん（鬼しぼ）及び変り無地（三越）にあらかじめ寸法測定用のマークを打ち、水張りにてたて、よこ方向とも引き伸ばしたものを試験布としました。

3.2 加工方法

試験布はアタッチメントに張り付け可能な大きさに切断して前後にポリエステル製の導布をつけました。このような前処理を行った試験布を各アタッチメントに張り、水分を付与した後、高温高圧蒸熱装置で130℃、5分間蒸熱処理を行い、アタッチメントに張った状態で乾燥しました。乾燥後の試験布はアタッチメントから外し、水に浸して緩和収縮させた後、再び乾燥しました。

3.3 評価方法

加工布の防縮についての評価はJIS L1096 一般織物試験方法に規定される8.64.4 織物の寸法変化C法（浸透浸せき法）

にて行いました。また、加工前後の破裂強度は同規定8.16.1 A法（ミューレン形法）、剛軟性は8.19.5 E法（ハンドルオメータ法）、防しわ性についてはJIS L1059 織物の防しわ性試験方法に規定されるB法（モンサント法）にて評価をしました。

加工による染色性への影響についても検討を行いました。処方は以下の通りです。

①反応染料による染色処方

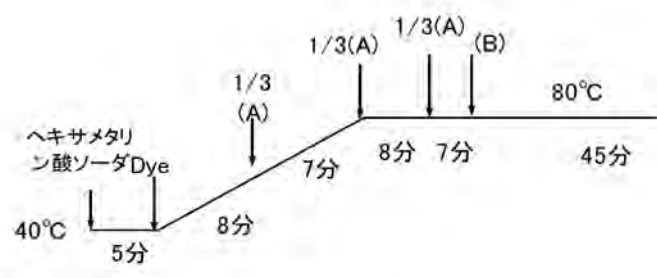
黄色は以下の処方にある染料を用い、赤はKayacion Red E-MS、青はKayacion Blue E-MSをそれぞれ使用しました。

染料	Kayacion Yellow E-MS	0.5%owf
助剤	ヘキサメタリン酸ソーダ	0.5g/L
	無水硫酸ナトリウム (A)	10g/L
	炭酸ナトリウム (B)	2g/L

浴比 1:20

ソーピング

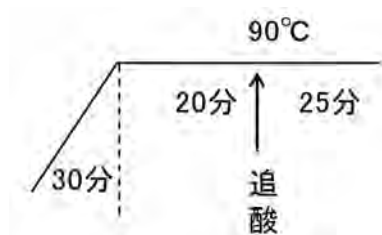
ノイゲン HC 2g/L 95℃×20分



②含金属錯塩酸性染料の染色処方

黄色は以下の処方にある染料を用い、赤は Lanyl Red GG、青は Lanyl Blue 3G をそれぞれ使用しました。

染料	Lanyl Brilliant Yellow 3G	0.6%owf
助剤	酢酸アンモニウム	3%owf
	酢酸	1%owf



4 結果および考察

4.1 防縮加工

表1に処理を行ったときの各工程前後の寸法変化率とC法による寸法変化を示します。表中の正の数は伸びを負の数は縮みを示しています。加工布は未加工布と比較し

て十分な防縮効果が得られています。

ビーム型アタッチメントは生地を巻き付けて処理をするために生地の長さに対して装置上の制約はありません。しかし、長くなれば蒸気処理のムラによりビームの内外で効果に差がでる可能性があります。そこで、巻き取り長さを2 m、4 m、8 mと変化させて内外の寸法変化率の差について検討を行いました。結果は表2のとおりです。2 mでは内側と外側で防縮処理後の寸法変化にほとんど差がありませんが、8 mの場合には内側ほど防縮処理後の縮みが小さくなっています。すなわち、内側ほど防縮効果が高くなっています。内側は外側の生地により押さえつけられているために、生地の重なりが多くなり強く固定されますが、外側は押さえつける生地が少ないために固定されにくくなっていると考えられます。また、今回の試験では蒸熱時間を130℃、5分で固定しましたが、長い生地を処理する場合には蒸熱時間の延長を検討する必要があります。これについては今後の検討課題です。

4.2 処理布の評価

防縮処理による生地への影響を調べるた

表1 処理前後およびC法による寸法変化率

生地	アタッチメント	た て			よ こ		
		水張による伸長率	元布と処理あがりの差	寸法変化C法	水張による伸長率	元布と処理あがりの差	寸法変化C法
古代	ビーム型	8.4	1.2	-2.0	4.5	2.8	-1.5
	未加工布	—	—	-20.0	—	—	-27.0
変無地	ビーム型	6.2	-0.1	-1.5	-0.9	-2.2	0.0
	未加工布	—	—	-15.5	—	—	-5.0

めに、加工前後の破裂強度、剛軟性、防し
わ性について試験を行いました。結果は表
3のとおりです。いずれの値についても未
処理布に比べて若干低下していますが、実
用上問題はないと考えられます。

また、防縮処理布及び未加工布を染色し、
染色性への影響を調べました。さらに、染
色した生地を防縮処理し、色相等に及ぼす
影響を検討しました。一般的に和装で使用
されている高堅牢染色性の含金属錯塩酸性
染料、及び水に対する堅牢性の高い反応染
料の3原色を用いて染色を行い、加工前後
の色差を比較しました。この結果、防縮処
理後に染色したものについては、いずれの
染料を用いた場合でも色相変化はほぼ見ら
れず、特に濃色において差はありませんで
した。染色後に防縮処理を行ったものは、

反応染料を用いた場合には色相変化はほと
んど認められませんでした。含金属錯塩
酸性染料を用いた場合には若干の色相変化
が見られました。

さらに、処理布及び未処理布を染工場に
持ち込み、すべて同浴で反応染料による染
色を行い、染色による防縮効果への影響に
ついては検討しました。染色の様子を写真
3に示します。写真の右側および左側上部
は未処理布、左側下部は処理布です。写真
でも明らかなように90℃以上の染浴中でも
防縮効果が持続していることが確認できま
した。

5 着物の試作

染工場で染色した処理布および未処理布
を用いて着物を作製し、防縮効果の確認の

表2 ビーム型アタッチメント加工時の寸法変化

	た て				よ こ			
	内側		外側		内側		外側	
	水張前後	防縮処理 前後	水張前後	防縮処理 前後	水張前後	防縮処理 前後	水張前後	防縮処理 前後
2 m	8.3	-7.5	8.4	-7.0	4.6	-2.0	4.3	-1.6
4 m	8.8	-7.8	9.5	-8.9	3.9	-2.4	3.9	-3.3
8 m	8.9	-6.0	9.5	-9.1	5.1	-2.0	5.0	-5.5

表3 加工による生地への影響

			古 代		変 無 地	
			未加工布	加工布	未加工布	加工布
防しわ	たて	しわ回復角	155.2	141.6	147.2	131.1
		防しわ率	86.2	78.7	81.8	72.8
	よこ	しわ回復角	136.6	108.0	139.9	134.1
		防しわ率	75.9	60.0	77.7	74.5
剛軟度			65.4	82.4	62.4	75.8
破裂強度			7.3	6.6	14.9	16.2



写真3 染色時の生地の手動

ために、仕立て上り後の着物を水に濡らして防縮効果を検証しました。

作製した着物を水につけて乾燥したものを写真4に示します。処理布はわずかによこ方向に縮みが見られますが、未処理布で作製した着物と比較すれば格段に防縮性は上がっています。通常、着物の縮みに関するトラブルでは、胴裏に比べて表地の縮みが大きいことで生じるたるみ、いわゆる「袋状になる」の事例が多いのですが、今回の場合、表地より胴裏の縮みが大きく、表地にたるみができる現象が見られました。これより、胴裏にも防縮処理を行うことや縮みの少ない胴裏を用いるなど、胴裏にも縮み対策が必要であることがわかりました。

現時点では絹織物一反分を加工することができないために、一般的な仕立てに必要な各パーツの長さを想定し、反物を各パーツの長さに切断して防縮加工を行いました。つまり、一般的な規格品を作製する場合には現時点でも十分実用可能であるといえます。

6 おわりに

和装品でよく使用される非常に縮みやすい絹織物に、ビーム型アタッチメントを使用し、染色加工で一般的に使用されている高温高圧蒸熱装置で防縮処理を行うことで、浸透浸せき法での寸法変化率3%以下に抑えることができました。強撚糸を使用した古代ちりめんは風合いが独特で和装品では消費者に好まれています。吸湿により縮むトラブルが多く見られます。しかし、本加工による処理を行うことで、吸湿による縮みについては防止でき、和装品のトラブルを減少させるには十分な効果があるものと考えます。

今回作製したアタッチメントを用いて着物を試作したところ、いくつかの課題点が明らかになりましたが、アタッチメントと処方を一部変更することで対応は可能であると考えています。

なお、本研究は独立行政法人科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ京都平成20年度シーズ発掘試験（発掘型）研究の委託研究として実施したものです。



(左：加工着物

中：未加工着物

右：重ねて比較)

写真4 水に浸せき後に乾燥した着物

参考文献

- 1) 吉村ら、京都市染織試験場 平成7年度研究業務報告書 p.21
- 2) 吉村ら、京都市産業技術研究所繊維技術センター 平成20年度研究業務報告書 p.21

よしむら ひろし
研究担当課長補佐

ましも みき
研究員

京都市産業技術研究所 繊維技術センター

埼玉県ブランド繭「いろどり」について

埼玉県農林部生産振興課

園芸・特産担当 長嶋 聡

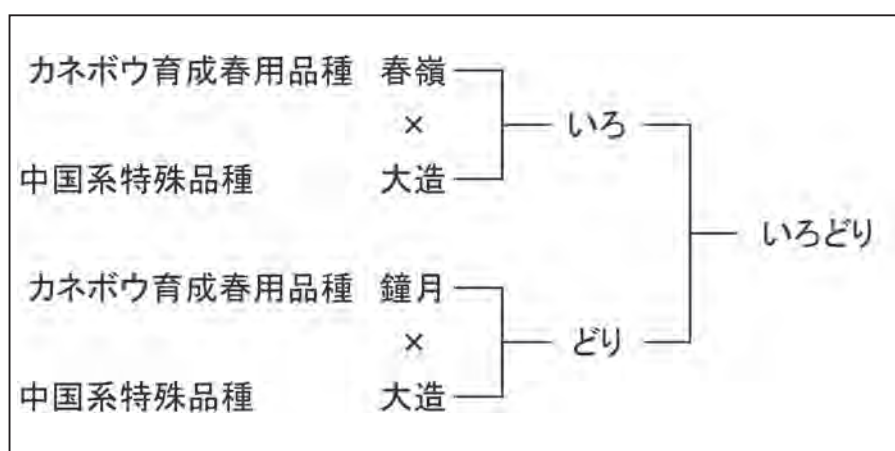
1 いろどりの開発

戦後の品種改良の進歩はめざましく、数多くの品種が世に出ました。これらの品種は、強健で生糸量歩合が高く、糸質にも優れたものでしたが、本来の「絹の味」を求める人たちからは物足りなさが指摘されていました。また、昭和から平成にかけて、「あけぼの（細繊維度用品種）」など、新しい品種が育成されましたが、洋装向けの品種が多かったため、埼玉県では「日本古来の絹の良さを復活させたい」という思いから、原種に近い品種をかけ合わせ、病気に強く「古い絹」の味を出せる品種の作出に取り組みしました。

当初の育種目標は、①十二単の優雅さ、②緞子のような重厚感、しゅり感、③深みのある発色等です。

当時の埼玉県蚕業試験場が和装向けに張りやこしが強い日中一代交雑二化性の春蚕用品種として「いろどり」を育成し、平成7年に蚕糸業法（平成10年に廃止）に基づく農林水産大臣の蚕品種指定を受けました。

いろどりの来歴



2 いろいろの特徴

(1) いろいろの蚕品種の特徴

○ 化 性：二化性

○ 適用蚕期：春蚕期

○ 虫 質：強健で食桑活発、眠期はよく揃い飼育取扱は容易である。

5 齢期は桑不足とならないようにうす飼いとし、良桑を飽食させると繭重が重くなり、繭層歩合、生糸量歩合も高くなる。

○ 繭 外 観：繭は笹色の淡笹色、浅縊俵形に楕円形を混じ、ちぢらは普通である。

○ 繭糸性状：糸質が優れ、解じょも良好である。

特に繭層練減率が低く、エクسفオリエーション等級点が高い。

繭糸繊度は 2.6 デニール内外である。

○ そ の 他：生糸練減率が低く、織物にした場合、摩耗に強く、繭糸繊度が細いわりに「こし」が強い等の特徴がある。

いろいろ繭と普通繭の差異について

項 目	普通繭	いろいろ繭	特 徴
化蛹歩合	9 5 %内外	9 7 %程度	病気に強いということ
生糸のこし	—	曲げ剛性高い 剪断剛性高い	こしが強く、帯地などに適
生糸練減率	約 2 5 %	約 2 0 %	練減が少ない
染色特性	難溶性セリシンⅡ 含有量 5 %	難溶性セリシンⅡ 含有量 1 0 %	濃色の染色の場合、発色に深みができる
摩擦強度	4 0 ～ 4 5 回	6 3 ～ 6 8 回	布地の摩擦強度 5 0 %増



写真 1 (左)いろいろ繭・生糸と(右)普通繭・生糸

（２）笹繭セリシン

いろどりは原種に近い品種の形質を導入した結果、淡い緑色の繭（笹繭）を作る品種になりました。

このいろどり繭の最大の特徴は、繭層のセリシン層に多様な機能で知られるフラボノール色素含量が多いことです。

このため、いろどりセリシンは非常に魅力的な素材として注目されています。

大日本蚕糸会蚕糸科学研究所では、いろどりセリシンは通常の白繭セリシンに比べてメラニン色素の生成抑制機能、抗酸化作用、紫外線カット機能等が強いことを明らかにしています。



写真２いろどり繭の集繭作業

（３）地域限定生産

いろどり繭の生産は、中山間地域の養蚕の活性化を図るために、秩父地域のみ限定して行なっています。そのため、現在流通しているいろどりの製品は、すべて埼玉県秩父地域の産です。

秩父地域の養蚕農家も、自分たちがいろどりのブランドを支えているという自負と愛情を持っていろどりを育てています。

また、豊かな自然に恵まれた秩父地域のイメージが重複して、「秩父地域限定製品」として高い評価を得ています。

なお、「いろどり」は繭その他の絹繊維で、平成 14 年 11 月にＪＡちちぶと全国農業協同組合連合会が共同で商標登録しています。

３ いろどりの製品開発

(1) 布地としての利用

日本古来の絹の良さを表現できる特徴を生かし、京都の織物業者に西陣織の帯地として製品化されました。

また、西陣和装地、丹後縮緬による高級着物地として販売され、高い評価を得ています。

いろどりの持つ本来の笹色を生かした生地その他、糸にセリシンを残して染色すると独特の発色をさせることができることから、幅広い加工が可能です。



写真3「いろどり」繭・生糸・反物の展示

(2) 機能性成分の活用

いろどりのシルクセリシンの機能性に着目して、埼玉県農林総合研究センターと財団法人大日本蚕糸会蚕糸科学研究所及び埼玉県内の化粧品メーカーが共同研究を行い、いろどり化粧品を開発しました。

また、J A ちちぶでは、いろどりのセリシンを配合した化粧石けんを発売しており、多くのリピーターを獲得しています。

さらに、抗菌性の機能を期待した高級真綿布団も開発され好評を博しています。

同様の期待から、婦人用スーツ、インナースーツなども試作されています。

このように、本来の伝統的な絹繊維としての活用の枠を大きく超えた、新たな製品開発・活用の可能性がふくらんでいます。

4 今後の活用

いろどり繭は秩父地域の養蚕農家が愛情を込めて育てた、埼玉県のオリジナルブランド繭で多くの特徴を備えています。

そのため、様々な利用方法が想定されており、今後の蚕糸・絹業提携システム作りのアイテムとして多方面から期待が寄せられているところです。

繭の色や糸質に特徴があることから、一般の白繭のように加工にあたって量の補填や流用が難しく、白繭以上に生産から最終製品加工までの計画量の管理が重要になってきます。

当面は、秩父地域での生産を継続し、全国で御活用いただく仕組みを強化してまいります。一方で、県内の加工へも働きかけ、地産地消できるようなシステムも構築していきたいと考えています。

日本古来の絹の良さを表現できるほか、様々な機能性を備えた埼玉県のいろどりです。いろどりで何か面白い物語を描ける方、興味がある方は、コーディネーターの方と御検討ください。

いろどりを活用した新たなシステム構築のご提案については、埼玉県としても養蚕農家との結びつけのお手伝いをしたいと考えております。



写真4「いろどり」を使用した「きもの」

ながしま さとし
埼玉県農林部生産振興課 園芸・特産担当

国内産地情報

絹織物産地の概況（1月）

丹後、長浜の主要産地での生産量は久し振りで前年同月比を上回った

<原糸>

中国の生糸相場は一時の上昇の勢いはないものの、依然として強含みで推移している。しかし、織物への転嫁は無地、紋生地ともに若干の価格アップは見られたが依然として厳しく、原糸の仕入れは慎重にならざるを得ない状況であり、当用買いに徹している。

<白生地>

- ・ 丹後の縮緬生産は、無地 120%、紋生地は 113% の生産で大幅な増産となった。一部の無地、安値品に限り値上げが聞かれるが、他の商品は値上げが無い。
- ・ 長浜の生産は、前年比 110% と昨年を大きく上回り、黒用素材を中心に引き合いが順調であった。
- ・ 五泉の生産量は、前年比 25% の減産となり、全体に荷動きは悪かった。
- ・ 福島は、羽二重、スカーフ地ともに操業状況が落ち、前年比 20 ～ 30% の減少であった。
- ・ 石川は、生産は前月と変わらず減産。中近東向け合繊洋装は順調。
- ・ 福井は、広幅羽二重は 13%、小幅羽二重は輸入品との価格競争で 16% の減産である。
- ・ 群馬・埼玉は、売れ行きが低下したままで前年を割り込んでおり、在庫を調整している。

<先染織物>

- ・ 西陣の帯は、総じて低迷している。特に高額商品の売れ行きが悪く減産を継続している。しかし値頃商品の一部では生産が追いついていない。
- ・ 十日町は、付下げは大幅に伸びているが、他の商品は全般に減少している。
- ・ 博多は、紋系に活発さは見られない。平地においては小幅帯を含み前年対比を上回っている。一部夏物もあり前年にな動きである。
- ・ 米沢は、呉服は生産調整を実施し厳しい商況に対応している。
- ・ 山梨は、ネクタイは売れていない。国産品が入るスペースがない程中国産品で十分となっている。服地は少なめではあるが何とか動いている。
- ・ 西陣のネクタイは、百貨店、デパート向けの注文が若干見られたが、輸入物が全般的に浸透しており、国産品は押されて機屋は苦戦している。

*（社）日本生糸問屋協会月報 22.2.15 第 731 号による。

海外シルク情報

中国

中国シルク製品（ネクタイ、ニット）の特化生産基地である嵯州市の紹介

シルク大国である中国においては、繭、生糸などのシルク原料の主要拠点は数多くあるが、最近ではこれに加えて技術的に加工度の高いデザインに富むシルク製品に特化した拠点都市が各地に出現している。中でもシルクネクタイとシルクニット製品に特化した生産基地である嵯州市は有名であり、今回はこの都市の様子を紹介する。

同市は、現在、生糸を原料とする繊維産業が隆盛を極めている基地であり、中央業界より「21世紀のネクタイ国際都市」「中国随一のニット服装生産基地」及び「中国で最も衣料産業に影響を及ぼしている流行発信基地」の名称がこの都市に与えられている。

この地の生産規模は、シルクネクタイ、シルクニット服装及び絹製品生産メーカーは、1,900余の企業があり、年間の生糸消費量は約7,000トン（11万7千俵）に達し、これは中国の国内生糸消費量の10分の1に相当し、全国で最も生糸を集中的に消費する都市（日本でいえば丹後に相当）である。2008年度の統計では、シルクネクタイ及びシルクニット服装類の輸出金額は5.27億ドルであり、これは全中国のシルク商品輸出総金額の15%に相当している。特にネクタイに関しては、年間3.5億本生産し、そのうち1.6億本を輸出し、ネクタイの総販売額は100億元になり、ネクタイ製品の販売先は80カ国の地域にも及び、そのシェアは国内市場では90%、全世界では40%を占めている。

機械設備面では、最先端のコンピューターを備えた高性能ジャガード織機1,200台余を備え、世界的に見ても高性能織機を最も多く所有している地域の一つであり、この地では年間2,000万メートル余の高品質生地を製織可能である。また、ネクタイなどの製品研究センターがあり、ネクタイだけでもデザイン等の設計技師500人が従事し、日産2,000種類のデザインが24時間体制で製織可能の能力を有している。

最新中国シルク関係主要統計

最近発表された昨年2009年の中国シルク関係主要統計を紹介する。

1 養蚕生産関係（全国19か所の主要産地（省、区）を暦年集計）

- ①桑園面積：1,208万ムー（80.53万ha）、対前年比8.2%減少。
- ②蚕種掃立数量：1,457万枚、対前年比19.1%の減少。
- ③家蚕繭生産数量：56.35万トン、対前年比17.4%の減少。

2 シルク原糸生産関係（中国シルク協会調査）

- ①生糸生産量：8.45 万トン（140 万 8 千俵）、対前年比約 6.5% 減少。
- ②絹糸生産量：1.9 万トン（31 万 7 千俵）、対前年比 30.%減少。

3 シルク商品輸出関係（2009 年 1 ～ 11 月累計の中国税関統計）

- ①シルク商品輸出総額：26.69 億ドル、対前年比 18.8% 減少。（3 年連続しての小幅減少が続く）
- ②この中の生糸等蚕糸原糸類の輸出
 - 輸出数量：20,445.1 トン (34 万 1 千俵)、対前年比 16%減少、
 - 輸出金額：4.68 億ドル、対前年比 20.9% 減少。
 - 輸出単価：22.9 ドル/kg、対前年比 5.9% 減少。
- ③この中の絹織物の輸出
 - 輸出数量：2.40 億メートル、対前年比 1.5% 増加。
 - 輸出金額：7.03 億ドル、対前年比 7.8% 減少。
 - 輸出単価：2.93 ドル/メートル、対前年比 9.0% 減少。
- ④この中のシルク服装の輸出
 - 輸出数量：7.90 千万枚、対前年比 30.9% 減少。
 - 輸出金額：10.43 億ドル、対前年比 26%減少。
 - 輸出単価：13.2 ドル/枚、対前年比 7.1% 減少。

* 日本生糸問屋協会月報 22.1.15 第 730 号及び 22.2.1 5 第 731 による。

開港当初ごろの各地の生糸

シルク博物館

元部長 小 泉 勝 夫

1 産地によって異なる生糸の束装

横浜を開港すると、各養蚕産地からさまざまな束装を行った生糸が運び込まれてきました。

以下、開港ごろの各産地の生糸を紹介しましょう。

① ^{さげいと}提糸

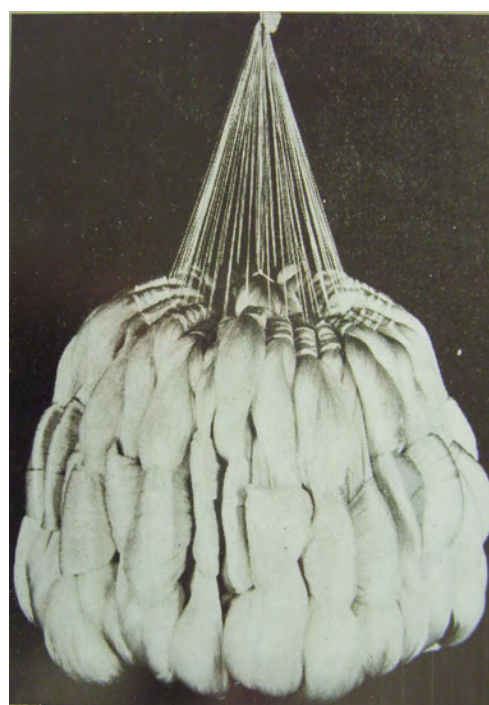
横浜に最も多く運び込まれた生糸が提糸（写真7）でした。この生糸の束装は上州、信州、武州や奥州の三春・会津、越後の小出・堀の内などで行われました。

写真7のように^さ提げるように束装しており、結び目は紙で^{もとゆい}元結をしました。

上州の富岡・下仁田産の提糸は、他の産地よりも特に優れており、これに続いて安中・大間々・前橋の提糸が良かったといわれています。

提糸は現在の生糸の格付けのように、最上質のものを1番とし、1番1/4、1番1/2、一番3/4、2番…という順番で生糸商標を変え、生糸の品質がわかるようにしました。

ロンドンやリヨンでは、わが国の提糸の産地がわからないので、提糸すべてを「前橋」といっていたそうです。前橋の提糸は、かなりの量がヨーロッパに渡り有名になっ



（写真7） 提糸
（日本蚕糸業史第1巻より引用）

ていたようです。

この提糸束装された生糸は東京農工大学科学博物館（東京都小金井市）に所蔵されています。

② ^{はまつけいと}浜付糸

^{やながわ}この束装は主に福島県の掛田・保原・^{おりかえしいと}梁川などで行われましたが、その後、折返糸（写真8）に改良されました。山形県内で束装された浜付糸は、福島のものよ

りも長手になっており、糸が切れやすいので本造りにはしなかったといえます。

浜付糸も生糸の品質によって格付けをしました。上質（1等）のものは、問屋によって呼称は違っていました。「浜」を付けて「勝浜」「正浜」「叶浜」などと呼び、2等は「川張」、3等は「飛太白」、4等は「白糸」といいました。

掛田糸は、質の良いものが多かったので、海外でも「掛田糸」としてよく知られていました。



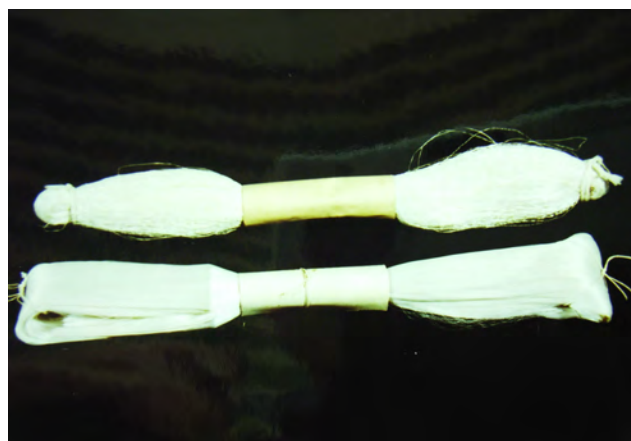
(写真8) 掛田折返糸
(シルク博物館所蔵)

③ てつぽういと 鉄砲糸

この束装は秋田・山形・福島方面で行われ、^{かせ} 総の大きさは生産地によって異なり、大小がありました。

小総は志津川・小浜・針道・郡山・相馬・南部・秋田などで、大総は掛田・保原・^{やながわ} 梁川・白石などや米沢・上ノ山・猪苗代・小田付・庄内・越後の五泉で造られました。輸出にはあまり向かない生糸のようでした。

写真9はシルク博物館所蔵の羽前鉄砲糸ですが、この他の掛田折返糸や曾代糸などと同様に束装してから長い年月を経過して



(写真9) 羽前鉄砲糸
(シルク博物館所蔵)

いるため、劣化が進み同博物館では常設展示をしておりません。

④ 曾代糸

美濃国（現在の岐阜県）曾代の島田糸（美濃曾代糸）と呼ばれ、写真10は下造りされたものです。

この下造りを^{くるまづくり}「車造」といい、これを重ねて1^{こり}梱（9貫目・33.75kg）にしたものを、美濃曾代糸の本造といいました。

この糸は開港ごろ、糸質のよさが評価され、最初にヨーロッパへ輸出された生糸の一つとみられています。開港後40～50年（明治後半）ぐらいまで、京都で使用さ



(写真10) 美濃曾代糸^{くるまづくり}「車造」
(シルク博物館所蔵)

れていたといわれています。

⑤ 三丹州糸

この束装は丹波^{たんば}（京都府の一部）・丹後^{たんご}（京都府の一部）・但馬^{たじま}（兵庫県の一部）の3カ国で行われており、織度が太く50～100デニールぐらいありました。

京都での売買では、奥州生糸は1梱^{こり}9貫目であったのに対し、三丹州糸は10貫目（37.5 kg）以上あったといいます。写真11はシルク博物館所蔵の貴重な三丹州糸です。



（写真11） 三丹州糸
（シルク博物館所蔵）

⑥ 達磨糸^{だるまいと}

近江（滋賀県）長浜あたりで縮緬^{ちりめん}の経糸や緯糸に使われました。生糸は、はじめ手挽き^{てび}で行っていましたが、その後、足踏^{あしふみ}器械で製糸をするようになってからは「自転車取糸」ともよばれました。

達磨糸には細糸と太糸があり、細糸は25～35デニール、太糸は40～50デニールありました。写真12はシルク博物館に所蔵されている貴重な近江達磨糸です。

⑦ その他の産地の生糸

京都でよく使われた「信州飯田糸」や糸の太さ60～70デニールで越後の織物に



（写真12） 近江達磨糸
（シルク博物館所蔵）

よく使われたという「越後五泉糸」、光沢はよくなかったが枳尾紬の経糸に使われたという「越後枳尾糸」、大枠で繰糸した長さ1丈5～6尺^{うしくび}（約4.5～4.8m）もある越前牛首糸、達磨糸と同様な造りをした「肥後バラ糸」、織度が太いため輸出には向かなかったが、京都や長浜でよく使われたという「土佐島田糸」、黒八丈の経糸・緯糸に必要とされた「八王子島田糸」など、国内各地では、さまざまな束装をして輸出や国内用として使われていました。

2 生糸の束装の統一

横浜に出てくる生糸の束装は、各産地によって前述のように全く異なっていました。横浜に最も多く持込まれた提糸の束装方法でも、生産地によって異なっていたといわれています。他の生糸の束装方法も提糸同様に生産地によって違いがありました。このような多様な束装の生糸では取扱いが煩雑なため、1977（明治10）年ごろから洋式の束装「猪口造り^{ちよこづく}」に統一されました。

こいずみ かつお
シルク博物館 元部長

イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
名古屋で純国産絹製品展	繭生産、生糸加工、染や織などをだれが行ったかなど、つくり手の顔を見える絹製品生産履歴が書かれている純国産絹マークを添付した絹製品等を中心に純国産展示コーナーを設置・展示し、これらの優れた絹製品を広くPRいたします。 (入場無料)	平成22年3月4日(木)～9日(火) 3月4日～8日は10:00～19:30 最終日は10:00～17:30	会場:名古屋・丸栄 8F催事場 主催:(社)日本絹業協会 Tel:03-3214-1691 Fax:03-3214-1700 後援:(社)全日本きもの振興会、 (社)日本絹人繊維物工業会、 (財)大日本蚕糸会等
第6回日本絹の里工芸展	日本絹の里は、生きたカイコと絹の歴史から最新の研究まで、シルクを科学する総合博物館です。今年で6回目を迎える工芸展では、より多くの方々に天然素材である絹の素晴らしさを知っていただくため、絹や繭等の素材を活かした作品を日頃製作している工芸作家と日本絹の里友の会の作品を展示し、鑑賞の場として開催します。出展作品は、絹を用いた染物、織物、人形、刺繍、組紐、蚕糸業にまつわる写真などです。 観覧料:一般200円(160円)、大高生100円(80円) ()内は20名以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名様無料	平成22年3月13日(土)～ 4月12日(月) AM9:30～PM5:00 (火曜日休館)	会場・主催・お問合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinuno-sato.or.jp
米原市の自然と伝統工芸	米原市の伝統工芸である絹真綿製品(布団・はんでん)、木彫品などを展示・販売いたします。 (入場無料)	平成22年3月15日(月)～ 19日(金) AM11:00～PM7:00 (15日はPM1:00から、19日はPM7:00まで)	会場:有楽町「ふるさと情報プラザ」 東京・千代田区有楽町 電気ビル1F 主催:まいばら本物発信事業実行委員会 お問い合わせ:米原市商工観光課 Tel:0749-58-2227
西陣織大会	伝統を誇る西陣産地が、西陣織すべての作品を一堂に公開・展示する。前日に審査し総理大臣賞等決めて、翌日から一般公開する。 *「純国産絹織物工房公開」(ジオラマや蚕の一生展)は、3月19日～21日に西陣織会館2Fで開催される。(入場無料)	平成22年3月20日(土)～ 22日(月)	会場:京都市勧業館みやこめっせ 主催:西陣織工業組合 共催:京都府、京都市
「シルクロード浪漫」 ペルシャシルク絨毯の世界	本展では豪華なアンティークのペルシャ絨毯から現代活躍中の新進デザイナーの作品などあわせて絹製のペルシャ絨毯を約100点一堂に展示紹介します。また会期中に絨毯織り実演、講演会を開催します。 入館料:一般700円(600円)、大高生200円(150円)、65才以上300円(200円)小・中学生100円(50円) ()内は、団体割引(20人以上)の料金	平成22年4月24日(土)～ 5月23日(月) AM9:00～PM4:30 (4月26日、5月10日、5月17日休館)	会場・主催・お問合わせ シルク博物館 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町1番地(シルクセンター2F) (みなとみらい線 日本大通り駅下車3番出口) Tel:045-641-0841 http://www.silkmuseum.or.jp/

登録コーディネーター一覧

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業コーディネーター登録者一覧（五十音順）

平成 22 年 2 月 22 日現在

登録番号	氏 名	所属・役職名
21-026	青 山 繁	株式会社二葉きもの営業部
21-021	秋 山 徹	
20-067	秋 山 眞 和	(株)あきやま綾の手紬染織工房主宰
20-052	旭 利 彦	ロード・ニジュウイチ株式会社
20-013	阿 部 末 男	岩手県養蚕活性化推進協議会代表
20-036	阿 部 雅 一	株式会社マルシバ
21-003	天 野 三 吉	富士吉田織物協同組合開発部長
21-015	新 井 園 恵	新啓織物
21-014	新 井 教 央	新啓織物
21-011	碓 山 俊 光	西陣織工業組合専務理事
20-006	石 田 克 己	二十一世紀の絹を考える会世話人代表
20-019	伊 藤 公 一	株式会社伊と幸代表取締役社長
19-014	宇 村 幸 文	碓氷製糸農業協同組合製造部長
20-059	今 野 浩 嗣	京丹後市商工観光部丹後の魅力総合振興課主任
20-041	梅 田 幸 平	有限会社幸和代表取締役
21-023	江 口 純一郎	日本刺繍紅会養蚕・繰糸担当
19-010	遠 田 寿 之	松岡株式会社監査役
20-048	大 野 章	勝山織物株式会社
20-063	大 竹 史 朗	有限会社大竹商店代表取締役
21-001	岡 田 心 平	株式会社あきやま常務取締役
21-007	小 倉 進 吾	株式会社小倉商店
20-044	小此木 エツ子	多摩シルクライフ 21 研究会代表
21-005	小山田 勉	株式会社オヤマダ代表取締役社長
20-037	角 谷 美和子	ハクビ京都きもの学院学院長
21-004	柏 木 幹 弘	有限会社カシワギ代表取締役社長
20-035	片 山 政 明	山形県養蚕産地推進員
20-049	勝 山 健 史	勝山織物株式会社専務取締役
20-064	加 藤 洋 次	株式会社加藤技術士事務所所長
19-021	門 倉 重 行	門倉メリヤス株式会社代表取締役
20-030	金 井 史 郎	東北撚糸株式会社代表取締役社長
20-025	亀 井 修 一	株式会社伊と幸営業部
19-022	川 瀬 久 弥	樋口株式会社工場長
20-043	河 田 芳 宏	河芳織物有限会社代表取締役
20-020	北 川 幸	株式会社伊と幸取締役社長室長
20-032	北 丸 豊	豊栄繊維株式会社代表取締役社長
19-019	木 下 幸 太 郎	株式会社マルシバ代表取締役社長
21-020	木 村 正 一	山形県病害虫防除所技術主幹
20-009	草 間 健 一	株式会社草間商会代表取締役
20-066	黒 田 秀 樹	株式会社伊と幸装部次長
19-013	小坂橋 広 行	碓氷製糸農業協同組合参事
20-061	小 口 和 興	株式会社帛撰代表取締役
21-002	小 林 嘉 朗	有限会社コバヤシ代表取締役
20-002	薦 田 智 昌	ロード・ニジュウイチ株式会社代表取締役
20-012	昆 野 和 夫	前いわい東農業協同組合養蚕農家指導担当
20-045	境 京 子	多摩シルクライフ 21 研究会
21-025	酒 井 進	有限会社酒井代表取締役
20-074	佐々木 祥 一	株式会社川島織物セルコン
20-001	笹 口 晴 美	有限会社ミラノリブ代表取締役
19-012	佐 藤 信 行	松岡株式会社常務取締役
20-004	佐 藤 幸 香	「香染」工房主宰
19-011	渋谷 健 治	松岡株式会社シルク事業部課長
20-040	清 水 武 彦	(有) シンセイ (信州繭ブランド織物振興会会長)
20-018	都 木 裕一郎	ニッケン通商株式会社生糸販売担当責任者
19-017	高 橋 耕 一	株式会社宮坂製糸所専務取締役
20-075	高 橋 弘 直	大門屋店主

(注) 標記名簿は公表を了承された方のみ掲載しております。

登録番号	氏 名	所属・役職名
20-071	竹 下 和 利	有限会社寿光織本舗取締役社長
20-076	田 中 隆	田中種株式会社代表取締役
20-065	田 中 裕 司	株式会社布四季庵ヨネオリ代表取締役
19-007	田 中 幸 夫	(財) 大日本蚕糸会蚕業技術研究所副所長
20-014	俵 武 司	株式会社千總友仙工場代表取締役
21-010	知 識 勝 博	宮崎県中部農林振興局営農相談員
20-005	土 井 芳 文	絹小沢株式会社業務推進役
21-008	道 明 三保子	文化女子大学文化ファッション研究機構客員研究員
20-077	堂 本 正	田中種株式会社営業部長
21-017	土 肥 光四朗	株式会社トキワ商事代表取締役会長
21-012	富 田 篤	株式会社富田染工芸代表取締役
20-053	内 藤 吉 雄	元艶金興業株式会社
20-058	永 岩 則 子	長崎絹業探究所所長
20-060	中 尾 浩 祥	株式会社丸万中尾取締役
21-006	中 澤 豊	株式会社山桜代表取締役社長
20-072	中 島 洋 一	玉川大学非常勤講師
21-027	長 島 誠	長島繊維株式会社
20-057	中 野 豊	長崎絹業探究所製作担当
20-031	中 谷 比佐子	株式会社秋櫻舎代表取締役社長
20-016	西 尾 仁 志	有限会社西尾呉服店代表取締役
21-022	似 内 久 俊	
20-024	野 中 康 雄	株式会社伊と幸和装部次長
19-015	萩 原 和 憲	碓氷製糸農業協同組合総務主任
19-018	服 部 芳 和	有限会社織道楽塩野屋代表
20-056	林 太 一	昭和撚糸工業株式会社
20-038	原 田 晶 三	アンファンテリブル代表
20-015	原 田 尹 文	有限会社ハラダ代表取締役
20-027	東 宣 江	群馬県蚕糸館主宰
20-008	兵 頭 眞 通	愛媛蚕種株式会社代表取締役
20-007	深 田 祥 二	株式会社深田商店専務取締役
20-039	福 田 隆	株式会社龍工房代表取締役
20-050	福 地 圭 一	丸八生糸株式会社
19-023	福 永 吉 穂	江一株式会社原糸事業部長
20-046	藤 井 浩 一	藤井絞株式会社取締役部長
20-069	藤 井 美登利	川越むかし工房代表
20-011	星 野 伸 男	新增澤工業株式会社代表取締役
20-055	堀 内 新 也	農業、地域（繭）マイスター
20-051	舞 鶴 一 雄	株式会社西陣まいづる代表取締役社長
21-013	眞 浦 正 徳	山梨県中小企業団体中央会応援コーディネーター
21-019	前 田 市 郎	株式会社前田源商店取締役
20-054	前 田 勝 臣	株式会社日本クリエイティブセンター代表取締役
20-010	前 田 進	有限会社スリーエスプランニング代表取締役
20-047	松 井 慎一郎	加賀グンゼ株式会社代表取締役
20-028	松 澤 清 典	松澤製糸所
20-033	松 本 信 孝	有限会社ハック代表取締役
19-016	宮 坂 照 彦	株式会社宮坂製糸所代表取締役
20-026	宮 沢 巳起代	有限会社塩野屋東京事務所スタッフ
20-022	宮 忠 光	株式会社伊と幸取締役副部長
20-021	本 橋 伸 夫	株式会社伊と幸取締役営業本部長
20-070	藪 内 猛 之	株式会社ヤブウチ代表取締役
20-078	藪 垣 茂 仁	田中種株式会社仕入担当
20-068	山 口 治 之	丹波生糸株式会社代表取締役
21-018	山 崎 泰 洋	山崎織物株式会社代表取締役
20-017	山 根 敏 男	松村株式会社繊維原料部部門長
20-062	吉 川 幸四郎	有限会社吉川商事代表取締役
20-073	渡 辺 健 次	渡文株式会社代表取締役専務
20-029	渡 邊 英 夫	橋本レース株式会社

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

平成 22 年 2 月 10 日現在

No.	企業名	主な絹製品名
1	株式会社 千總	後染織物（訪問着・付下・色無地、振袖）、胴裏地
2	株式会社 織匠田歌	先染反物、先染帯
3	有限会社 ミラノリブ	洋装品（婦人服（トップス、ボトム）、ソックス、ショール、ストール、スカーフ、ネクタイ、ニットタイ、ベスト）
4	株式会社 丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）
5	株式会社 坂本屋	後染反物（色無地）、胴裏絹（灰汁浸け加工）
6	有限会社 平原	後染反物（色無地、黒紋付）
7	株式会社 信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
8	株式会社 きものアイ	後染反物（色無地）
9	株式会社 上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
10	有限会社 樹	後染反物（色無地、黒紋付）
11	株式会社 銀座もとじ	白生地、後染反物、大島紬、結城紬、染織作家製品、八掛、御召
12	河瀬満織物 株式会社	先染帯
13	有限会社 織匠小平	先染帯
14	門倉メリヤス 株式会社	洋装品（紳士靴下、ジャケット、セーター、カーディガン、パンツ、スカート、帽子）
15	株式会社 結華	後染反物（色無地、黒紋付）
16	株式会社 絹回廊	後染反物（色無地）
17	有限会社 琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
18	有限会社 大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
21	日本蚕糸絹業開発協同組合	胴裏、長襦袢地、白生地、八掛、比翼地、後染反物（作家もの、黒紋付）
22	宮階織物 株式会社	先染反物、後染反物
23	21世紀の絹を考える会	帯（草木染袋帯、唐織袋帯、先染袋帯）、後染反物（色無地、訪問着）
24	碓氷製糸農業協同組合	白生地
25	丸幸織物 有限会社	白生地
26	織匠 万勝	帯地、先染着尺、後染着尺
27	有限会社 織道楽塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ）、ニット（ウォーマー・腹巻、手袋・靴下）
28	株式会社 丸万中尾	後染反物（江戸小紋、色無地、変一越）
29	株式会社 むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
30	株式会社 高島屋	後染反物（振袖、七五三着物）、長襦袢地
31	株式会社 さが美	後染反物（冬用・夏用黒紋付、色無地）
32	有限会社 まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
34	株式会社 小いけ	後染反物（色無地、黒紋付）
35	株式会社 伊と幸	後染反物（色無地）、白生地
36	株式会社 四季のきもの おおにし	後染反物（色無地、黒紋付）
37	株式会社 和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社 榎屋高尾	帯（袋帯）
39	株式会社 つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
40	株式会社 越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）
41	株式会社 小倉商店	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）
42	染織家 柳 崇	先染反物、帯
43	染織家 児玉 京子	先染反物
44	草木染工房山村	先染反物、帯、ストール
45	手織り よおん	先染反物、帯
46	祝嶺染織研究所	先染反物、帯
47	株式会社 龍工房	組紐
48	からん工房	先染反物（紋紬）、先染反物（紵）、帯
49	たわた工房	先染反物、帯
50	山音 株式会社	後染反物（変三越、駒紬）
51	やまと 株式会社	後染反物
52	株式会社 御園織物	先染反物、帯
53	桜井 株式会社	帯
54	有栖川織物 有限会社	帯
55	太田和 株式会社	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）
56	株式会社 岩田	帯
57	有限会社 神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）

No.	企業名	主な絹製品名
58	浅山織物 株式会社	帯
59	株式会社 やまと	帯
60	田中種 株式会社	後染反物 (小紋)
61	株式会社 京扇	後染反物 (色無地)、胴裏絹 (パールトーン加工)
62	株式会社 なごみや	後染反物 (色無地、黒紋付)
63	丸池藤井 株式会社	後染反物 (色無地)、八掛
64	久保商事 株式会社	和装小物 (帯揚げ)、和装小物 (半衿)
65	加賀グンゼ 株式会社	胴裏地
66	千切屋 株式会社	後染反物 (訪問着、付下)、帯
67	荒川 株式会社	帯メ、帯揚げ
68	第一衣料 株式会社	後染反物 (色無地)
69	株式会社 紅輪	後染反物 (色無地)
70	装いの道 株式会社	胴裏絹 (トルマリン加工、灰汁浸け加工)
71	株式会社 高橋屋	胴裏絹 (灰汁浸け加工)
72	おお又 株式会社	胴裏絹 (灰汁浸け加工)
73	株式会社 天野屋呉服店	胴裏絹 (灰汁浸け加工)、白生地
74	株式会社 きもの潮見	胴裏絹 (パールトーン加工)
75	株式会社 とみひろ	胴裏絹 (酵素精練)
76	株式会社 細安	胴裏絹 (酵素精練)
77	京和きもの 株式会社	胴裏絹 (酵素精練)
78	株式会社 まるため	胴裏絹 (トルマリン加工、パーリー加工)
79	株式会社 小川屋	胴裏絹 (トルマリン加工、灰汁浸け加工)
80	株式会社 エムラ	胴裏絹 (酵素精練)
81	株式会社 荒井呉服店	胴裏絹 (酵素精練)
82	株式会社 牛島屋	胴裏絹 (酵素精練)
83	株式会社 谷呉服店	胴裏絹 (酵素精練)
84	株式会社 登美屋	胴裏絹 (パールトーン加工)
85	株式会社 川平屋	胴裏絹 (パールトーン加工)
86	丸専第一衣料 株式会社 (丸専きもの)	胴裏絹 (パールトーン加工)
87	株式会社 大丸	胴裏絹 (錦秋×鐘和)
88	西陣織工業組合	洋装品 (マフラー)
89	株式会社 あきやま	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
90	藤井紋 株式会社	後染反物 (色無地)
91	株式会社 川まん	白生地
92	有限会社 結城屋	白生地
93	株式会社 ウメショウ	白生地
94	株式会社 大徳	後染反物 (色無地)
95	有限会社 カシワギ	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スカーフ、ストール、ネクタイ、シャツ、スーツ)
96	株式会社北尾織物匠	袋帯、名古屋帯
97	株式会社平田組紐	帯締、帯締 (金銀系 5% 以上)、羽織紐 (男物、女物)
98	株式会社菱健	後染反物 (色無地)
99	西野株式会社	帯締、帯締 (金銀系 5% 以上)
100	京商株式会社	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	株式会社猪井	後染反物
102	株式会社たちばな	後染反物
103	株式会社丸富美	後染反物 (色無地)
104	株式会社絹もの屋まつなが	後染反物 (色無地)
105	株式会社山正山崎	後染反物 (色無地)
106	有限会社こくぶん呉服店	後染反物 (色無地)
107	株式会社染織近藤	後染反物 (色無地)
108	株式会社宮川呉服店	後染反物 (色無地)
109	株式会社和らいつ	後染反物 (色無地)
110	有限会社きものいなもと	後染反物 (色無地)
111	株式会社世きね	後染反物
112	株式会社西陣まいづる	袋帯 (金銀系 5% 以上)
113	奥順 株式会社	先染反物 (結城紬)、帯 (結城紬)

蚕糸関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園/バラ園内)	027-231-9875
織物参考館 “紫” (ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 ((財) 日本きもの文化協会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鍵水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹系紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

蚕糸関係団体ホームページ一覧

平成 21 年 8 月 17 日現在

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(社) 日本絹業協会 (シヤパ[®]シルクセンター)
(社) 日本生糸問屋協会
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工芸品産業振興協会
東京穀物商品取引所

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.tafts.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>
<http://www.tge.or.jp/JApanese/index.shtml>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科
<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科
<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>
(国) 京都工芸繊維大学工学部応用生物学課程
<http://www.bio.kit.ac.jp/>
(国) 京都工芸繊維大学
<http://www.kit.ac.jp/>
(国) 信州大学繊維学部
<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>
(国) 名古屋大学農学部
<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学講座
http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html
(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>
(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻
http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース
<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departement/bio/biofunc/index.html>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科
<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(独) 農業生物資源研究所
<http://www.nias.affrc.go.jp>
(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所
http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所
http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html
群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545
群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241
京都府織物・機械金属振興センター
<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
京都市産業技術研究所繊維技術センター
<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【学 会】

日本シルク学会
日本蚕糸学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsss2/>

【博物館】

(財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	50
(2) 養蚕業の概要	51
(3) 養蚕農家数の推移	52
(4) 収繭量の推移	53
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量（2008年）	54
(6) 蚕品種別蚕種製造数量（2008年）	55
(7) 生糸需給状況及び絹糸、絹織物の輸出入状況	56
(8) 生糸生産数量の推移	57
(9) 生糸の織度別生産数量の推移	58
(10) 国内生糸価格実態	59
(11) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	61
(12) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	62
(13) 製糸工場の原料繭需給	63
(14) 器械製糸工場の操業状況	64
(15) 生糸在庫数量の内訳	65
(16) 蚕糸関係品目別輸入状況	66
(17) 生糸原産国別輸入状況	67
(18) 絹糸原産国別輸入状況	68
(19) 織物生産状況	69
(20) 絹人絹織物製造業者の絹織物生産状況	70
(21) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	71
(22) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	72

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	73
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	74
(3) 中国省別桑園面積、家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	75
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	76
(5) 中国のシルク類（生糸、絹糸、絹織物）の輸出状況	77
(6) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	78
(7) ブラジルの生糸、絹糸及び副蚕糸の内需、輸出別販売状況	79

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk-Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次 (暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
昭和50年 1975	248,400	91,219	367	333.9	123	87	311.3	156,494
55年 1980	165,590	73,061	441	267.6	105	81	279.2	143,708
60年 1985	99,710	47,274	474	158.6	67	87	212.5	107,499
平成3年 1991	44,010	20,821	473	91.4	50	75	161.7	76,089
4年 1992	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
5年 1993	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
6年 1994	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
7年 1995	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
8年 1996	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
9年 1997	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
10年 1998	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
11年 1999	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
12年 2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
13年 2001	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
14年 2002	2,360	880	373	6.5	7	68	51.2	26,826
15年 2003	2,070	780	377	4.8	6	64	48.7	23,935
16年 2004	1,850	683	369	4.4	5	62	45.6	21,895
17年 2005	1,591	626	393	2.5	2	62	43.7	19,816
18年 2006	1,345	505	375	2.0	2	83	41.6	18,507
19年 2007	1,169	433	370	1.8	2	83	40.0	15,466
20年 2008	1,021	382	374	1.6	2	80	38.1	13,913
前年対比 (%)	87.3	88.2	101.1	88.9	100.0	96.4	95.3	90.0

資料・養蚕業及び製糸業は農林水産省生産局調査によるものである。

ただし、平成13年以前の養蚕業は農林水産省統計部調査である。

・絹業は経済産業省調査によるものである。平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況である。

Source: The Regional Products and Industrial Crops Division, Agricultural Production Bureau,
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling)
The Statistic Department, MAFF (Sericultural industry, before 2001)
The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills.

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項 目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
年 次 Year	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07 (%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

(3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(4) 収繭量の推移

Cocoon Production

年次 Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量 (年間) Cocoon production per farm harvested area of mulberry
		年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕	
		Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993		11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002		880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003		775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004		675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005		626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006		505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007		433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008		382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07 (%)		88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比 (%)		100.0	38.5	25.1	36.4					

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～)。

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項目 Item 県別 Each Prefecture	年 計			春 繭		初秋繭		晩秋繭	
	Annual total			spring silk-worm		Early autumn silk-worm		late autumn silk-worm	
	養 蚕 農家数	桑使用 面 積	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩 手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮 城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山 形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福 島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨 城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃 木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群 馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼 玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千 葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12	..	2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山 梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長 野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐 阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳 島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛 媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊 本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)

Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2007年夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		2008春蚕用 for spring rearing		2008夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	2,600	73.5			2,380	67.9	4,980	33.5
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,390	30.6	360	10.3	2,750	18.5
ぐ ん ま × 200	302	8.5	1,575	20.2	210	6.0	2,087	14.1
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号			1,910	24.5			1,910	24.5
春 嶺 × 鐘 月			1,100	14.1			1,100	14.1
朝 ・ 日 × つくば・ね			100	1.3	500	14.3	600	4.0
新 小 石 丸	119	3.4	243	3.1			362	2.4
改 良 あ け ぼ の	180	5.1	80	1.0	50	1.4	310	2.1
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	108	3.1	99	1.3			207	1.4
上 州 絹 星	101	2.9	101	1.3			202	1.4
ぐ ん ま 黄 金	14	0.4	125	1.6	3	0.1	142	1.0
芙 ・ 蓉 × つくば・ね	100	2.8					100	0.7
蚕 太			41	0.5			41	0.5
新 青 白	11	0.3	23	0.3			34	0.3
小 石 丸			24	0.3			24	0.3
合 計 Total	3,535	23.8	7,811	52.6	3,503	23.6	14,849	100.0

資 料 : 農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(7) 生糸需給及び絹糸、絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply and Demand Balance, Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2002	6,521	31,702	—	37,265	25,955	28,089	124	12,248	6,843
2003	4,791	30,827	1,510	34,166	25,897	33,044	183	12,544	7,111
2004	4,387	26,008	12,500	29,585	14,207	29,774	331	13,127	7,274
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,964	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,654	7,126
生糸年度 Silk Year									
2002	5,953	30,510	—	35,462	26,794	28,150	154	11,747	6,986
2003	4,517	30,411	6,635	33,333	21,754	33,261	182	13,036	7,206
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2008 - 10	122	1,280	—	1,823	4,963	1,451	57	885	670
11	108	682	—	967	4,786	1,518	53	809	686
12	118	684	—	1,004	4,584	1,065	9	706	525
2009 - 1	101	1,004	—	1,115	4,574	1,281	5	1,090	400
2	109	516	—	989	4,210	801	6	424	581
3	111	921	—	880	4,362	1,213	19	730	591
4	111	529	—	797	4,205	1,459	26	834	574
5	91	1,379	—	1,517	4,158	1,092	33	727	526
6	101	800	—	1,218	3,841	1,363	54	900	514
7	94	927	—	957	3,905	1,656	49	793	504
8	88	921	—	847	4,060	1,646	37	683	469
9	94	1,174	—	1,117	4,211	1,525	31	603	448
10	93	1,083	—	1,440	3,947	1,664	26	737	657
11	86	1,060	—	1,365	3,728	1,525	65	733	476
09.1~09.11	1,079	10,314	—	12,249	3,728	15,224	351	8,254	5,740
08.1~08.11	1,470	14,347	—	19,111	4,786	21,572	457	10,953	6,601

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。
2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.
(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.
(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.
2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸生産数量の推移

Production of Raw Silk

(単位 : 60kg俵)

(Unit : Bales of 60kg)

項 目 Item	生 糸 及 び 玉 糸 Raw Silk and Doupion Silk					繭品質評価機関 Cocoon Quality Grading Stations
	計 Total	器械製糸 Machine Reeling Mills	国用製糸 Domestic Raw Silk Reelers	及び &	器械玉糸 Machine Reeling Mills	
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2002	6,521	5,617		904		・ ・
2003	4,791	4,000		791		・ ・
2004	4,387	3,634		753		・ ・
2005	2,508	1,735		773		・ ・
2006	1,956	1,417		539		・ ・
2007	1,747	1,227		520		・ ・
2008	1,588	1,193		395		・ ・
生糸年度 Silk Year						
2002	5,953	5,128		825		・ ・
2003	4,517	3,735		782		・ ・
2004	3,868	3,110		758		・ ・
2005	2,024	1,329		695		・ ・
2006	1,794	1,285		509		・ ・
2007	1,762	1,231		531		・ ・
2008	1,378	1,108		270		・ ・
2008 - 10	122	99		23		・ ・
11	108	86		22		・ ・
12	118	98		20		・ ・
2009 - 1	101	83		18		・ ・
2	109	89		20		・ ・
3	111	92		19		・ ・
4	111	92		19		・ ・
5	91	73		18		・ ・
6	101	83		18		・ ・
7	94	74		20		・ ・
8	88	71		17		・ ・
9	94	76		18		・ ・
10	93	75		18		・ ・
11	86	69		17		・ ・
09.1~09.11	1,079	877		202		・ ・
08.1~08.11	1,470	1,095		375		・ ・

資 料 : 農林水産省生産局調査。

備 考 : 1. 生糸年度は6月から翌年5月までである。

2. kgを60kg俵に換算しているのので、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. Silk year ranges from June to May of the following year.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 生糸の繊度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位 : 60kg俵)
(Unit : Bales of 60kg)

項目 Item 年 月 Year & Month	生 糸					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
暦 年						
Calendar Year						
2002	6,521	3	429	3,178	1,937	975
2003	4,791	13	343	2,865	1,038	533
2004	4,387	2	471	2,389	948	581
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
生糸年度						
Silk Year						
2002	5,953	8	316	3,273	1,649	706
2003	4,517	7	334	2,689	955	530
2004	3,868	4	482	1,845	918	622
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2008 — 10	122	—	33	36	25	28
11	108	—	20	40	20	28
12	118	—	23	50	20	24
2009 - 1	101	1	23	34	28	16
2	109	—	29	33	20	28
3	111	—	31	42	14	24
4	111	—	32	32	21	26
5	91	0	17	25	23	25
6	101	0	11	37	23	29
7	94	0	19	37	10	14
8	88	0	11	39	17	20
9	94	0	14	36	22	22
10	93	0	24	26	24	18
11	86	0	12	25	25	24

資 料 : 農林水産省生産局調査。

備 考 : kgを60kg俵に換算しているので、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10)国産生糸価格実態

Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位:円/kg
(Unit:Yen/kg)

織度 Size	21d	27d	31d	平均 Average
平成 20 年 7 月	4,173	3,795	3,577	3,848
8 月	4,481	3,741	3,499	3,907
9 月	4,386	3,794	3,540	3,907
10 月	4,363	3,885	3,539	3,929
11 月	4,140	3,809	3,461	3,803
12 月	4,087	3,883	3,403	3,791
平成 21 年 1 月	4,209	3,652	3,374	3,745
2 月	4,020	3,695	3,380	3,698
3 月	4,160	3,655	3,139	3,836
4 月	4,400	3,665	3,167	3,744
5 月	4,318	3,402	3,243	3,654
6 月	3,917	3,499	3,068	3,494
7 月	4,106	3,562	2,914	3,527
8 月	4,186	3,841	2,912	3,646
9 月	4,150	3,627	2,986	3,588
10 月	4,149	3,450	3,195	3,598
11 月	4,461	3,547	3,145	3,718

注 :国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料:(社)日本生糸問屋協会

Remarks: Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source:Japan Raw Silk Dealers Association

(参考) 中国生糸電子取引値段
China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸 A 類(21 デニール 5A)
Standard Raw Silk :21d 、5A

上段単位:元/kg、下段:円/kg
(Upper Sec Unit:Yuan/kg ,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
12 月中	12 月	255.08	254.40	256.80	256.05
		3,316	3,307	3,338	3,329
	1 月	253.43	253.28	255.23	255.23
		3,295	3,293	3,318	3,318
	3 月	256.50	256.35	257.93	257.78
		3,335	3,333	3,353	3,351
	4 月	255.98	255.98	257.78	257.78
		3,328	3,328	3,351	3,351
	5 月	253.50	253.50	254.93	254.93
		3,296	3,296	3,314	3,314
	6 月	250.20	250.20	251.55	251.55
		3,253	3,253	3,270	3,270
	7 月	244.88	244.88	246.23	246.23
		3,183	3,183	3,201	3,201
	9 月	243.83	243.83	244.88	244.88
		3,170	3,170	3,183	3,183
	11 月	243.15	243.15	243.60	243.60
		3,161	3,161	3,167	3,167

	限月 Month	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
1 月中	1 月	257.34	257.04	257.46	257.16
		3,345	3,342	3,347	3,343
	3 月	259.02	258.72	259.50	259.20
		3,367	3,363	3,374	3,370
	4 月	259.65	259.68	260.46	260.40
		3,375	3,376	3,386	3,385
	5 月	257.95	257.94	258.60	258.60
		3,353	3,353	3,362	3,362
	6 月	254.34	254.34	255.00	255.00
		3,306	3,306	3,315	3,315
	7 月	249.72	249.72	250.56	250.56
		3,246	3,246	3,257	3,257
	8 月	249.72	249.72	250.56	250.56
		3,246	3,246	3,257	3,257
	9 月	247.28	247.92	248.76	248.76
		3,215	3,223	3,234	3,234
	11 月	244.92	244.92	245.52	245.52
		3,184	3,184	3,192	3,192

注:円換算レートは、1 元=13 円である。

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan=13Yen

Source: China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

(11) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					二 次 The Second	輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③		
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	計 ③ Total		生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
対前年比 2008/07 (%)	94	92	100	95	115	121	95	90	96	76	—	—	83	50	98	89

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source：“Silk balance and price situation monthly”, “Trade Statistics”(arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

(12) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2003	2004	2005	2006	2007	2008	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		3.4	2.6	2.7	3.7	3.9	2.5	64.1	1.7
	女子用外衣類 Women's upper garments		52.0	54.2	59.9	56.6	50.0	40.2	80.4	27.6
	うちブラウス Blouse of the inside		3.5	3.5	3.7	3.5	3.0	3.4	113.3	2.3
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.7	6.3	5.8	5.7	2.2	1.6	72.7	1.1
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		14.7	14.7	16.1	15.1	15.0	16.3	108.7	11.2
	ハンカチ Handkerchief		0.9	0.8	1.9	1.0	0.5	0.5	100.0	0.3
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.5	3.5	3.4	2.7	3.0	2.9	96.7	2.0
	ネクタイ類 Ties		26.1	26.4	25.2	21.4	21.6	20.8	96.3	14.3
	メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting		18.0	19.3	19.9	18.5	21.2	19.8	93.4	13.6
	その他の洋装類 Other western clothes		24.1	25.0	26.7	26.3	25.4	23.7	93.3	16.3
	洋装類計 Western clothes subtotal		14.7	152.8	161.6	151.0	143.0	128.3	74.2	88.2
	和装類計 Japanese clothes subtotal		12.8	13.5	17.4	18.4	15.5	14.7	94.8	10.1
	うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside		9.4	10.0	14.1	16.0	12.9	12.1	106.6	8.3
	その他 Others		1.5	1.5	2.1	2.5	2.5	2.4	96.0	1.7
	合 計 Total		161.7	167.8	181.0	171.9	161.0	145.4	90.3	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注）：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note: Total may not added up due to round off.

(13) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

項目 Item 年月 Year & Month	総計			うち器械製糸工場		
	受入数量	消費数量	期末在庫数量	受入数量	消費数量	期末在庫数量
暦年 Calendar Year	Receipts	Put in Process	Ending Stocks	Receipts	Put in Process	Ending Stocks
2002	1,559	2,150	775	1,366	1,822	708
2003	1,598	1,612	761	1,302	1,330	679
2004	1,291	1,500	553	1,039	1,228	489
2005	866	830	589	540	552	478
2006	600	646	541	405	445	436
2007	548	581	505	345	390	391
2008	393	518	379	296	374	311
生糸年度						
Silk Year						
2002	1,921	1,972	525	1,764	1,674	480
2003	1,477	1,554	448	1,162	1,273	368
2004	1,056	1,280	224	794	1,008	154
2005	839	673	390	531	419	266
2006	562	599	349	405	410	260
2007	502	583	266	344	388	215
2008	406	452	224	303	351	167
2008 — 10	82	38	417	80	30	333
11	60	36	486	36	28	342
12	△ 1	37	379	△ 1	30	311
2009 — 1	4	34	354	0	27	283
2	△ 2	36	320	△ 2	29	253
3	10	39	291	0	31	222
4	△ 1	36	253	△ 1	29	192
5	1	31	224	△ 1	24	167
6	21	33	214	14	26	155
7	88	31	271	88	24	219
8	56	30	297	49	23	245
9	22	32	287	22	25	242
10	7	31	263	1	24	219
11	102	29	337	100	22	297

資料：農林水産省生産局調査。

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 総計は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。なお国用製糸及び玉糸製糸は乾繭重量調査のため、乾繭歩合42%にて生繭重量に換算した。

3. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. The grand total includes the material cocoons at the machine-reeling mills, reelers of raw silk for

(14) 器械製糸工場の操業状況

Activities of Machine Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運轉工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運轉可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2002	7	607	414	68	290	207
	2003	6	444	285	64	290	173
	2004	5	426	262	62	292	165
	2005	2	203	126	62	269	83
	2006	2	114	94	82	266	59
	2007	2	112	93	83	266	57
	2008	2	112	90	80	266	54
2007 — 2008 — 2009 —	10	2	112	92	82	24	60
	11	2	112	96	86	22	58
	12	2	112	94	84	22	57
	1	2	112	95	85	20	58
	2	2	112	94	84	22	57
	3	2	112	96	86	22	58
	4	2	112	100	89	23	60
	5	2	112	100	89	22	60
	6	2	112	95	85	23	60
	7	2	112	92	82	23	60
	8	2	112	91	81	21	56
	9	2	112	84	75	23	55
	10	2	112	87	78	24	55
	11	2	112	94	84	21	52
	12	2	112	90	80	22	54
	1	2	112	91	81	20	50
	2	2	118	89	75	21	54
	3	2	118	90	76	22	54
	4	2	118	86	73	22	50
	5	2	118	77	65	20	45
	6	2	118	77	65	23	49
	7	2	118	72	61	23	49
	8	2	118	75	64	20	49
	9	2	118	77	65	22	49
	10	2	118	77	65	24	49
11	2	118	74	63	21	48	

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(15) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年月 Year & Month	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2002	25,955	5,932	1,358	605	3,772	197	31,702	31,809	20,023
2003	25,897	8,001	1,663	235	5,784	319	30,827	32,954	17,896
2004	14,207	10,082	2,055	183	7,360	484	26,008	39,779	4,125
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
生糸年度 Silk Year									
2002	26,794	6,771	1,837	445	4,207	282	30,510	30,617	20,023
2003	21,754	9,163	1,842	560	6,516	245	30,411	37,843	12,591
2004	7,274	7,274	1,636	50	5,170	418	20,154	32,745	—
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	501			
2008 — 10	4,963	4,963	312	15	3,799	837			
11	4,786	4,786	296	15	3,687	788			
12	4,584	4,584	310	15	3,536	723			
2009 — 1	4,574	4,574	322	15	3,461	776			
2	4,210	4,210	329	10	3,261	610			
3	4,362	4,362	333	10	3,366	653			
4	4,205	4,205	361	15	3,248	581			
5	4,158	4,158	376	15	3,266	501			
6	3,841	3,841	382	15	3,056	388			
7	3,898	3,898	381	15	3,062	440			
8	4,060	4,060	362	15	3,156	527			
9	4,211	4,211	345	15	3,264	587			
10	3,947	3,947	339	15	3,055	538			
11	3,728	3,728	359	10	2,926	433			

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：製糸工場は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Figures for filatures are the sum total of the closing stocks in machine-reeling filatures, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion reelers.

(16)蚕糸関係品目別輸入状況(平成16年～21年11月)

Breakdown of Silk-Related Products Imports (2004～Nov 2009)

	単位 Unit	平成21年(2009)		平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	平成17年 (2005)	平成16年 (2004)	20年/19年 2008/07 (%)
		(11月) Nov	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	1,060	10,314	15,242	12,858	21,148	22,915	25,419	118.5
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,525	15,225	22,636	19,439	31,524	32,699	29,745	116.4
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	—	34	317	333	430	520	934	95.2
繭 Cocoon	kg	800	9,800	4,000	13,750	18,565	16,300	203,604	14.0
真綿 Floss Silk	kg	—	—	29,071	28,660	34,176	45,186	25,320	101.4
ペニール Peigne	kg	—	35,331	2,770	6,336	19,760	15,068	14,952	43.7
くず繭 Waste Cocoon	kg	1,866	22,103	23,770	17,184	1,020	3,650	6,797	138.3
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	202,220	242,082	234,894	216,422	293,373	83.5
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	15,027	102,632	193,125	238,507	255,951	319,072	267,341	81.0
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	16,893	160,066	450,956	532,769	545,801	878,398	607,783	84.6
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other	kg	52,284	335,410	526,662	608,270	756,065	847,200	781,454	86.6
絹紡細糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	17,984	97,554	143,585	117,265	208,913	202,901	244,557	122.4
絹織物 Silk Fabrics	m ²	733,056	8,253,556	11,540,335	11,355,333	12,989,059	15,999,327	13,127,009	101.6

資料：財務省関税局

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(17) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位 : 60 k g 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国名 Country	計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
年 月 Year & Month	Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
暦年 Calendar Year						
2006	21.148 (174)	14.740 (101)	6.181 (68)	5 (5)	222 (-)	-
2007	12.858 (149)	8.804 (124)	3.848 (25)	-	206 (-)	-
2008	15.242 (137)	11.024 (102)	4.101 (35)	-	117 (-)	-
生糸年度 Silk Year						
2006	13.460 (166)	8.385 (119)	4.454 (42)	5 (5)	174 (-)	-
2007	16.185 (93)	11.410 (69)	4.607 (24)	-	168 (-)	-
2008	12.138 (103)	8.572 (89)	3.435 (14)	11	122	-
2007 - 11	1.443 (5)	1.109 (5)	307	-	27	-
12	868 (21)	623 (21)	220	-	25	-
2008 - 1	1.041 (8)	824	213 (8)	-	4	-
2	849 (5)	580 (5)	267	-	2	-
3	1.484 (14)	1.036 (10)	448 (4)	-	-	-
4	505	314	191	-	-	-
5	3.574 (29)	2.542 (20)	1.026 (9)	-	6	-
6	1.362 (5)	1.128	233 (5)	-	1	-
7	1.517 (21)	1.090 (21)	407	-	20	-
8	1.129 (29)	726 (15)	385 (14)	-	18	-
9	1.135 (21)	906 (21)	212	-	17	-
10	1.280	913	347	-	20	-
11	682 (5)	512	151 (5)	-	20	-
12	684 (10)	397 (10)	272	-	14	-
2009 - 1	1.004	693	309	-	2	-
2	516	195	321	-	-	-
3	921 (7)	820 (7)	97	-	5	-
4	529 (10)	333 (10)	181	11	5	-
5	1.379 (5)	859 (5)	520	-	-	-
6	800	636	162	-	2	-
7	927	842	79	-	6	-
8	921	819	96	-	7	-
9	1.174	890	284	-	-	-
10	1.083	776	299	-	7	-
11	1.060	500	553	-	7	-

資 料 : 財務省関税局調査

備 考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.
2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(18) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country 年月 Year & Month	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year								
2005	32,700	292	18,977	7,550	7	—	5,867	6
2006	31,524	94	17,019	8,706	27	—	5,675	3
2007	19,439	21	11,726	4,743	12	1	2,930	7
2008	22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12
生糸年度 Silk Year								
2005	36,113	143	21,337	8,983	18	—	5,621	8
2006	21,561	78	11,212	5,735	18	1	4,518	3
2007	22,936	7	13,263	6,344	15	—	3,297	10
2008	18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2007 — 11	1,989	—	1,136	567	2	—	281	4
12	1,667	—	930	371	0.4	—	365	—
2008 — 1	2,021	—	1,236	447	0	—	338	0
2	1,769	—	853	746	0	—	170	0
3	1,689	7	871	418	1.0	—	390	2
4	2,220	—	1,187	660	5	—	366	2
5	2,067	—	1,146	615	—	—	304	2
6	2,087	23	1,302	600	—	—	161	1
7	2,459	—	1,502	555	2	—	400	—
8	2,311	—	1,275	753	1	—	282	—
9	1,979	—	1,103	644	1	—	226	5
10	1,451	—	781	462	—	—	208	—
11	1,518	—	645	687	—	—	186	1
12	1,065	—	609	279	2	—	174	1
2009 — 1	1,281	—	842	278	—	—	159	2
2	801	—	253	463	—	—	65	19
3	1,213	—	734	300	3	—	176	—
4	1,459	—	959	317	—	—	148	35
5	1,092	—	672	362	2	—	57	—
6	1,363	—	768	489	—	—	106	—
7	1,656	—	1,046	438	—	—	171	—
8	1,646	—	842	664	—	—	140	—
9	1,525	—	911	447	4	—	106	58
10	1,664	—	808	563	0	—	293	—
11	1,525	—	800	604	—	—	120	0

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(19) 織物生産数量
Fabric Production

(単位 : 1,000㎡)
(Unit : 1,000sq. meters.)

年 月 Year & Month	項 目 Item	計 Total	綿織物 Cotton Fabrics	絹織物 Silk Fabrics	絹紡織物 Spun Silk Fabrics	合成繊維 織物 Synthetic Fiber Fabrics	人絹織物 Rayon Filament and Acetate Fabrics	ビスコース スフ織物 Viscose staple fabrics	毛織物 Wool Fabrics	麻織物 Bast Fiber Fabrics
暦 年 Calendar Year										
2002		2,162,818	539,764	26,824	1,054	1,292,617	69,544	141,816	88,114	3,085
2003		2,031,053	506,696	23,940	728	1,217,413	71,711	129,178	78,071	3,318
2004		1,974,731	479,246	21,970	753	1,209,640	67,540	116,294	75,662	3,326
2005		1,837,703	425,460	19,816	579	1,146,845	66,231	101,235	72,531	5,006
2006		1,736,816	399,697	17,122	1,384	1,082,896	64,509	95,783	70,817	4,608
2007		1,699,291	367,733	14,262	1,204	1,096,107	63,714	85,308	67,590	3,372
2008		1,553,767	326,954	12,791	1,252	1,008,457	60,582	79,928	60,712	3,091
2007 —	5	139,291	31,264	1,150	95	89,177	5,183	6,262	5,912	247
	6	143,181	31,427	1,275	98	91,959	5,338	6,963	5,922	200
	7	145,873	31,229	1,200	97	94,825	5,438	6,909	5,958	217
	8	135,738	28,823	1,036	93	88,065	5,167	6,445	5,949	161
	9	138,732	28,451	1,209	125	91,069	5,191	6,904	5,591	192
	10	145,544	29,580	1,181	111	96,040	5,567	6,863	5,974	228
	11	143,797	29,178	1,217	98	94,956	5,419	6,924	5,748	257
	12	141,698	29,412	1,196	101	93,350	5,368	6,652	5,184	436
2008 —	1	133,067	26,568	994	107	89,112	5,070	6,129	4,759	330
	2	139,973	28,262	1,198	102	92,685	5,468	7,220	4,813	226
	3	141,922	28,510	1,178	103	94,709	5,520	6,804	4,890	208
	4	139,796	28,146	1,097	103	92,890	5,553	6,518	5,135	354
	5	130,923	27,563	1,110	101	84,940	5,252	6,587	5,128	253
	6	132,067	27,370	1,159	104	85,408	5,300	6,916	5,602	207
	7	127,748	27,577	1,085	99	81,040	5,341	6,766	5,613	227
	8	118,610	25,975	931	97	75,181	4,668	6,393	5,186	179
	9	124,690	26,194	1,031	125	81,707	4,696	6,507	5,249	182
	10	125,446	27,066	1,010	113	80,493	4,709	6,675	5,149	232
	11	121,721	26,754	1,025	102	77,375	4,609	6,749	4,843	263
	12	117,803	26,970	982	96	73,917	4,397	6,663	4,347	430
2009 —	1	104,401	23,096	729	87	67,408	3,916	5,247	3,667	251
	2	99,387	21,064	879	85	63,883	3,647	6,116	3,550	164
	3	93,091	19,946	847	85	60,655	2,653	5,577	3,187	141
	4	87,492	18,426	792	42	57,489	2,015	5,346	3,154	228
	5	83,008	17,832	747	42	54,352	1,284	5,171	3,015	164
	6	84,518	16,379	806	44	56,652	1,995	5,546	2,970	124
	7	85,647	16,247	769	42	57,433	2,435	5,397	3,219	107
	8	81,133	16,297	685	38	52,996	2,367	5,494	3,187	70
	9	85,055	16,879	756	40	56,421	2,215	5,523	3,146	75
	10	88,751	17,787	752	42	58,691	2,911	5,384	3,108	77
	11	88,110	17,830	782	48	58,125	2,766	5,498	2,973	88

資 料 : 経済産業省調査。

備 考 : 交織を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks : Mixed fabrics included.

(20) 絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics by Silk and Rayon Weavers

(単位：1,000m²)

(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2002	26,715	10,277	4,355	3,251	2,673	11,855	8,030	3,824	4,582
2003	23,822	8,371	3,800	2,464	2,107	11,399	7,653	3,747	4,053
2004	21,859	7,540	3,510	2,190	1,842	10,809	7,346	3,463	3,509
2005	19,698	6,664	2,965	1,903	1,800	10,181	6,900	3,280	2,852
2006	18,153	6,104	2,734	1,728	1,646	9,194	5,882	3,312	2,855
2007	15,182	5,214	2,276	1,547	1,392	7,575	4,578	2,997	2,392
2008	13,661	4,781	2,061	1,419	1,301	6,800	4,170	2,631	2,080
2007 — 5	1,225	440	192	124	124	585	337	248	200
6	1,354	461	194	139	129	683	428	255	210
7	1,276	445	186	138	121	647	391	256	184
8	1,108	392	169	124	99	554	315	239	162
9	1,286	427	187	134	106	661	423	238	197
10	1,262	423	189	122	111	629	377	252	210
11	1,297	451	191	132	127	645	399	245	201
12	1,274	435	187	136	112	639	400	238	200
2008 — 1	1,070	394	180	114	100	501	270	231	175
2	1,269	422	183	129	110	644	407	237	203
3	1,241	419	184	125	110	634	402	232	188
4	1,171	419	189	122	108	585	360	225	167
5	1,176	421	187	121	113	579	353	226	176
6	1,240	429	190	125	114	630	403	227	181
7	1,157	400	177	113	110	562	343	219	195
8	998	337	152	95	89	507	301	205	155
9	1,100	364	156	101	107	555	342	213	182
10	1,084	385	149	123	114	538	322	216	161
11	1,094	403	158	128	117	542	343	199	149
12	1,049	391	155	124	112	524	325	199	135
2009 — 1	790	283	109	92	83	395	209	186	111
2	939	307	104	104	99	503	317	186	128
3	911	298	108	90	99	491	295	197	122
4	814	281	111	93	77	434	290	144	99
5	768	260	106	87	66	408	265	143	100
6	829	272	110	89	72	445	298	146	113
7	790	259	104	85	69	418	273	145	113
8	699	230	98	80	51	382	256	126	88
9	722	246	98	85	63	419	288	132	107
10	771	248	104	80	65	411	271	140	112
11	805	259	99	82	78	445	303	141	101

資 料：経済産業省調査。

備 考：単位以下四捨五入。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks : Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(21) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹人絹織物製造業者の 絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
年 月 Year & Month								
暦 年 Calendar Year								
2002	26,715	89.6	1,179,219	95.1	229,272	83.7	998,239	79.1
2003	23,822	89.2	1,171,145	99.3	208,660	91.0	922,533	92.4
2004	21,859	91.8	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,698	90.1	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,153	92.2	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,182	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	13,661	90.0	656,889	92.2	88,401	90.9	867,559	88.7
2007 — 7	1,276	83.3	61,873	80.3	7,237	69.3	88,894	169.1
8	1,108	82.2	47,776	81.9	6,078	68.9	89,497	211.9
9	1,286	87.4	69,062	92.9	8,439	111.1	70,350	203.0
10	1,262	87.5	58,668	84.8	9,400	100.7	60,982	161.7
11	1,297	94.5	63,195	97.0	8,207	93.1	78,005	154.9
12	1,274	93.0	62,144	89.7	8,097	89.9	67,462	144.6
2008 — 1	1,070	92.4	38,929	90.2	7,511	102.5	56,667	60.9
2	1,269	96.7	65,845	100.1	7,288	81.1	93,343	86.2
3	1,241	93.4	65,402	111.1	7,959	82.4	78,494	97.2
4	1,171	88.9	57,356	91.7	7,964	90.1	74,391	87.8
5	1,176	96.0	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
6	1,240	91.6	65,862	95.4	9,352	130.5	57,541	68.1
7	1,157	90.7	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	998	90.1	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,100	85.5	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10	1,084	85.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,094	84.3	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
12	1,049	82.3	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
2009 — 1	790	73.8	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
2	939	74.0	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
3	911	73.4	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4	814	69.5	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
5	768	65.3	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
6	829	66.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
7	790	68.3	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
8	699	70.0	37,632	80.5	5,642	106.4	42,766	64.2
9	722	65.6	44,281	80.7	6,077	81.9	53,568	53.4
10	711	65.6	40,356	80.7	6,027	77.1	57,802	93.0
11	805	73.6	47,618	89.2	6,920	86.8	66,104	94.5
12			43,241	88.1	6,061	102.9		

資 料 : 「絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量」は経済産業省調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備 考 : 2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan.2006, sash livings are included in sash production.

(22)全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)
暦年Calendar Year												
2003	302,623	▲ 1.1	13,967	▲ 4.1	520	21.2	5,478	▲ 4.0	2,889	▲ 2.7	1,272	▲ 4.9
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2007 - 10	296,984	0.6	13,481	▲ 2.8	244	▲ 59.7	5,212	▲ 2.0	2,948	▲ 1.3	1,315	10.6
11	282,836	▲ 0.6	14,292	▲ 0.5	504	185.8	5,773	▲ 9.0	2,692	0.1	1,460	10.9
12	351,667	2.2	14,816	▲ 5.8	130	▲ 57.8	6,162	▲ 4.4	2,860	▲ 2.6	1,566	▲ 8.0
2008 - 1	309,826	3.6	13,981	▲ 5.6	504	35.0	6,212	▲ 3.9	2,768	▲ 7.1	1,079	▲ 1.9
2	275,565	0.0	10,215	▲ 2.7	308	▲ 41.6	4,351	▲ 6.4	1,864	▲ 1.9	894	11.2
3	312,565	▲ 1.6	14,035	▲ 0.8	128	▲ 75.0	6,445	▲ 2.6	2,482	5.3	957	8.4
4	310,695	▲ 2.7	12,778	▲ 4.1	86	▲ 52.5	4,965	▲ 7.7	2,509	▲ 3.9	984	▲ 2.5
5	288,128	▲ 3.2	12,762	▲ 4.9	211	31.6	4,635	1.3	2,840	▲ 11.7	1,123	▲ 7.7
6	281,951	▲ 1.8	11,894	▲ 13.8	123	▲ 70.1	4,206	▲ 10.0	2,934	▲ 16.7	1,081	▲ 19.8
7	298,366	▲ 0.5	13,702	3.2	341	▲ 13.1	4,634	▲ 1.5	3,637	9.1	1,346	9.7
8	291,154	▲ 4.0	9,945	▲ 0.5	769	48.6	3,124	▲ 1.5	2,259	▲ 0.7	1,060	4.1
9	281,433	▲ 2.3	10,021	1.2	221	10.9	3,667	1.6	2,094	▲ 0.6	904	▲ 7.9
10	291,504	▲ 3.8	12,755	▲ 6.0	393	61.9	4,807	▲ 8.5	2,697	▲ 8.2	1,120	▲ 14.6
11	284,762	▲ 0.5	14,547	1.3	158	▲ 68.5	6,205	7.3	2,646	▲ 1.9	1,490	2.1
12	336,976	▲ 4.6	13,644	▲ 8.4	346	168.6	5,429	▲ 12.2	2,449	▲ 14.7	1,558	▲ 0.5
2009 - 1	291,440	▲ 5.9	13,679	▲ 1.4	337	▲ 32.6	6,371	4.0	2,528	▲ 7.1	1,034	▲ 4.4
2	266,044	▲ 3.5	8,879	▲ 12.9	165	▲ 45.8	3,883	▲ 10.7	1,669	▲ 9.5	704	▲ 21.4
3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4
4	306,340	▲ 1.3	12,533	▲ 1.6	360	324.5	4,569	▲ 7.4	2,451	▲ 1.9	976	▲ 1.0
5	285,530	0.3	12,623	▲ 1.0	181	▲ 13.2	4,451	▲ 3.6	2,755	▲ 2.7	1,060	▲ 6.0
6	277,237	0.2	11,815	▲ 0.3	117	▲ 3.5	3,929	▲ 6.0	2,935	0.9	1,143	5.5
7	285,078	▲ 2.0	11,873	▲ 12.7	209	▲ 38.1	3,871	▲ 15.6	3,029	▲ 15.8	1,299	▲ 3.3
8	290,972	2.6	8,882	▲ 10.2	368	▲ 51.7	2,820	▲ 9.2	2,185	▲ 2.2	907	▲ 14.1
9	277,110	1.0	9,651	▲ 2.5	215	▲ 2.4	3,273	▲ 8.4	2,141	2.1	932	3.3
10	287,789	1.6	12,287	▲ 2.3	75	▲ 80.8	4,685	0.1	2,705	1.0	1,220	9.3
11	284,740	2.2	13,698	▲ 4.3	236	50.0	5,558	▲ 7.8	2,512	▲ 4.3	1,392	▲ 6.0

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau,MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing & footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts & sweaters and other items.

Year value is mean of the each month.

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2002年	2003年	2004年
		トン	トン	トン
日本	Japan	880	780	683
中国	China	545,497	480,774	547,091
インド	India	128,000	117,000	120,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	10,238	9,966	8,005
タイ	Thailand	3,473	10,500	10,650
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,500	3,200	3,200
インドネシア	Indonesia	691		
トルコ	Turkey	100	169	169
ブルガリア	Bulgaria	50	0.3	20
ギリシャ	Greece	60	60	70
フィリピン	Philippines	28	23	22
主要国の計	Total	733,517	663,472	730,910

区 分		2005年	2006年	2007年
		トン	トン	トン
日本	Japan	626	505	433
中国	China	621,461	739,715	779,261
インド	India	126,000	135,000	150,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	7,146	8,051	8,617
タイ	Thailand	10,650	10,100	1,785
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	2,543	2,104	1,665
インドネシア	Indonesia			
トルコ	Turkey	170	350	130
ブルガリア	Bulgaria	42	65	55
ギリシャ	Greece	70	100	104
フィリピン	Philippines	14.4	16	9
主要国の計	Total	809,722	937,006	983,059

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2002年		2003年		2004年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	391	6,500	287	4,800	263	4,400
中国	China	73,585	1,226,400	83,763	1,396,100	80,231	1,337,200
インド	India	14,617	243,600	13,970	232,800	14,620	243,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,607	26,800	1,563	26,100	1,512	25,200
タイ	Thailand	1,500	25,000	1,500	25,000	1,420	23,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	630	10,500	500	8,300	500	8,300
インドネシア	Indonesia	91	1,500				
トルコ	Turkey	17	300	28	500	28	500
ブルガリア	Bulgaria	7	100	0	0	3	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4.5	100
フィリピン	Philippines	3	100	3	100	3	100
主要国の計	Total	95,802	1,596,700	104,968	1,749,600	101,935	1,699,100

区 分		2005年		2006年		2007年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	151	2,500	119	2,000	105	1,800
中国	China	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000
インド	India	15,445	257,400	16,525	275,400	18,320	305,300
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,285	21,400	1,387	23,100	1,220	20,300
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,080	18,000	760	12,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	395	6,600	324	5,400	253	4,200
インドネシア	Indonesia						
トルコ	Turkey	30	500	25	400	20	300
ブルガリア	Bulgaria	6	100	5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	0	0
フィリピン	Philippines	1.1	0	1.6	0	1	0
主要国の計	Total	109,848	1,830,800	115,926	1,932,300	132,457	2,207,500

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(3) 中国省別桑園面積・家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数

Mulberry Farm Area, Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	桑園面積 Mulberry Farm Area (10,000ha, %)			家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2005	2006	対前年比 2006/05	2006	2007	対前年比 2007/06	2006	2007	対前年比 2007/06
山 西	Shanxi	0.82	1.10	135	5,602	5,800	104	175	130	74
上 海	Shanghai	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	9.08	8.98	99	117,800	104,119	88	20,186	22,000	109
浙 江	Zhejiang	7.04	7.40	105	85,122	83,900	99	19,051	18,500	97
安 徽	Anhui	4.67	5.47	117	37,596	38,100	101	4,038	5,200	129
江 西	Jiangxi	1.63	1.90	116	12,110	12,400	102	1,676	2,500	149
山 東	Shandong	5.00	5.00	100	39,700	40,500	102	6,253	7,200	115
河 南	Henan	2.20	2.73	124	13,390	13,700	102	318	110	35
湖 北	Hubei	2.53	2.79	110	15,706	15,800	101	536	470	88
湖 南	Hunan	0.61	0.69	112	4,100	4,200	102	50	60	120
広 東	Guangdong	2.53	5.33	211	68,750	81,127	118	1,138	1,400	123
広 西	Guangxi	9.40	12.00	128	185,000	205,163	111	8,020	11,000	137
重 慶	Chongqing	7.93	7.93	100	23,828	24,800	104	6,490	7,800	120
四 川	Sichuan	10.67	10.67	100	77,800	83,700	108	21,914	28,000	128
貴 州	Guizhou	0.58	0.63	108	1,254	2,532	202	-	-	-
雲 南	Yunnan	5.27	6.25	119	31,477	36,600	116	1,335	1,640	123
陝 西	Shaanxi	4.80	5.00	104	18,498	24,600	133	1,657	2,300	139
甘 肅	Gansu	0.62	0.65	104	613	500	82	-	-	-
寧 夏	Ningxia	0.28	0.33	120	475	500	105	59	50	85
新 疆	Xinjiang	0.50	0.73	145	895	200	22	-	-	-
内 蒙 古	Inner Mong	-	-	-	-	-	-	208	60	28.80
合 計	Total	76.20	85.57	112	739,715	779,261	105	93,105	108,420	116

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	対比 2008/06
702	682	97(%)

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1996年～2007年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	前年比 07/06(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei	0.1		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	
山 西	Shanxi	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	100.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai									0.0	0.0			
江 蘇	Jiangsu	9.2	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	88.1
浙 江	Zhejiang	8.4	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	98.9
安 徽	Anhui	2.4	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	100.0
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.8	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	100.0
山 東	Shandong	4.1	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	100.0
河 南	Henan	1.3	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	107.7
湖 北	Hubei	1.2	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	100.0
湖 南	Hunan	0.2	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	2.2	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	117.4
広 西	Guangxi	1.7	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	110.8
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing			2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	104.2
四 川	Sichuan	12.2	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	107.7
貴 州	Guizhou	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	200.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	119.4
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.5	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	138.9
甘 肅	Gansu									0.1	0.1	0.1	0.1	100.0
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia									0.0	0.0	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
合 計	Total	47.1	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	105.4

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5)中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2008年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 インド	India	8,376,916	95.61	198.655	95.74
2 ルーマニア	Romania	1,122,194	229.25	30.163	247.36
3 イタリア	Italy	829,113	84.23	23.391	89.00
4 日本	Japan	662,460	85.26	19.222	89.26
5 ベトナム	Vietnam	628,784	130.28	16.504	137.62
6 韓国	South Korea	561,080	62.02	14.868	61.67
7 パキスタン	Pakistan	246,913	93.97	5.794	92.99
8 バングラデシュ	Bangladesh	193,213	83.00	4.502	82.55
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	154,721	67.92	3.735	67.63
10 タイ	Thailand	77,128	99.45	2.000	96.87
11 その他	Others	578,870	104.72	14.901	104.65
合計	Total	13,431,394	97.66	333.735	99.00

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 イタリア	Italy	916,759	132.94	28.804	137.47
2 日本	Japan	627,903	140.56	20.108	143.90
3 インド	India	542,905	113.77	14.939	117.53
4 パキスタン	Pakistan	416,968	112.40	11.742	114.35
5 ドイツ	Germany	395,690	79.76	13.803	80.10
6 タイ	Thailand	211,670	174.92	6.409	180.18
7 トルコ	Turkey	63,941	148.93	2.429	140.48
8 インドネシア	Indonesia	48,415	137.44	1.315	145.49
9 韓国	South Korea	43,601	37.36	1.485	39.64
10 香港	Hong Kong	30,381	828.27	0.960	791.71
11 その他	Others	107,761	62.71	3.921	96.88
合計	Total	3,405,994	114.36	105.915	116.44

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 インド	India	58,533,788	79.44	139.041	79.72
2 イタリア	Italy	44,916,778	138.52	144.278	131.10
3 香港	Hong Kong	27,767,378	94.40	122.817	97.18
4 パキスタン	Pakistan	20,415,584	99.70	41.814	99.23
5 韓国	South Korea	20,317,354	97.82	79.553	102.23
6 日本	Japan	13,594,742	99.07	37.482	103.06
7 アメリカ	United States	8,349,317	88.03	48.281	86.79
8 シンガポール	Singapore	7,180,679	93.89	19.236	79.86
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	6,901,548	124.54	22.457	70.65
10 マレーシア	Malaysia	6,756,442	186.33	23.028	200.41
11 その他	Others	34,603,876	121.03	125.775	120.81
合計	Total	249,337,487	101.22	803.762	104.13

資料:中国税関
Source: Customs General Administration in China

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2009年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	6,569,701	78.43	169.347	85.25
2 韓国	South Korea	535,549	95.45	15.298	102.90
3 日本	Japan	452,022	68.23	13.085	68.07
4 ベトナム	Vietnam	375,651	59.74	10.753	65.15
5 イタリア	Italy	256,086	30.89	7.581	32.41
6 ルーマニア	Romania	255,816	22.80	7.174	23.79
7 パキスタン	Pakistan	177,598	71.93	4.587	79.16
8 バングラデシュ	Bangladesh	151,813	78.57	3.798	84.36
9 シンガポール	Singapore	129,035	189.66	3.251	208.51
10 ミャンマー	Myanmar	65,661	118.00	1.594	122.07
11 その他	Others	258,273	37.59	7.053	39.69
合計	Total	9,227,205	68.70	243.521	72.97

相手国	Country	絹糸 Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	2,477,192	456.28	63.805	427.09
2 日本	Japan	596,647	95.02	18.318	91.10
3 パキスタン	Pakistan	464,458	111.39	13.203	112.44
4 イタリア	Italy	412,419	44.99	12.492	43.37
5 ドイツ	Germany	296,058	74.82	9.325	67.56
6 韓国	South Korea	202,018	463.33	5.923	398.83
7 タイ	Thailand	88,127	41.63	2.647	41.30
8 インドネシア	Indonesia	78,856	162.88	2.102	159.86
9 シンガポール	Singapore	69,474	287.05	1.617	256.15
10 ベトナム	Vietnam	56,380	1124.45	1.416	588.72
11 その他	Others	184,838	106.93	5.381	126.61
合計	Total	4,926,467	144.64	136.229	128.62

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	65,737,464	112.31	160.690	115.57
2 パキスタン	Pakistan	45,144,585	221.13	88.970	212.78
3 イタリア	Italy	36,326,731	80.82	105.440	73.08
4 香港	Hong Kong	17,155,562	61.78	75.032	61.09
5 韓国	South Korea	17,005,031	83.70	63.282	79.55
6 日本	Japan	11,401,420	83.87	29.884	79.73
7 シンガポール	Singapore	10,373,370	144.46	36.621	190.37
8 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	9,144,231	132.50	28.526	127.03
9 マレーシア	Malaysia	9,118,447	134.96	30.400	132.01
10 アメリカ	United States	5,460,308	65.40	30.024	62.19
11 その他	Others	35,259,585	101.90	116.842	92.90
合計	Total	262,126,734	105.13	765.711	95.27

資料:中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6)ブラジルの繭・生糸生産量推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)	暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1985/86	11,353	1985	1,553,776	25,896
1986/87	10,575	1986	1,663,976	27,733
1987/88	11,830	1987	1,658,375	27,640
1988/89	11,470	1988	1,748,996	29,150
1989/90	15,829	1989	1,696,622	28,277
1990/91	17,221	1990	1,693,206	28,220
1991/92	17,586	1991	2,077,155	34,619
1992/93	19,134	1992	2,296,053	38,268
1993/94	18,260	1993	2,325,809	38,763
1994/95	16,260	1994	2,535,440	42,257
1995/96	15,368 (95%)	1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996/97	14,811 (96%)	1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997/98	14,594 (99%)	1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998/99	10,305 (71%)	1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999/2000	8,473 (82%)	1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000/01	9,916 (117%)	2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001/02	10,238 (103%)	2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002/03	9,966 (97%)	2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003/04	8,005 (80%)	2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004/05	7,146 (89%)	2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005/06	8,051 (113%)	2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006/07	8,617 (107%)	2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007/08	6,266 (73%)	2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008/09	4,835 (77%)	2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009/10 〔見込み〕 〔Estimate〕	4,586 (95%)	2009 〔見込み〕 〔Estimate〕	850,000 (72%)	14,167

資料: ブラジル製糸協会

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2009年10月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of October 2009.

(7) ブラジル生糸、絹撚糸及び副蚕糸の内需・輸出別販売状況

Domestic Demand and Exports of Raw Silk, Twisted Silk Yarn and Secondary Silk Yarn in Brazil

単位：ト, ()内は60kg俵

Unit: ton, Figures in Parenthesis: Bales of 60kg

区分		2003年 実績	2004年 実績	2005年 実績	2006年 実績	2007年 実績	2008年 実績	2009年予測 forecast	09/08 (%)
生糸 Raw Silk	内需 Domestic Demand	90 (1,500)	106 (1,767)	118 (1,967)	72 (1,200)	84 (1,400)	70 (1,167)	56 (933)	80.0
	輸出 Export	1,057 (17,617)	837 (13,950)	676 (11,267)	782 (13,033)	876 (14,600)	721 (12,017)	624 (10,400)	86.5
	計 Total	1,147 (19,117)	943 (15,717)	794 (13,233)	854 (14,233)	960 (16,000)	791 (13,183)	680 (11,333)	86.0
絹撚糸 Twisted Silk Yarn	内需 Domestic Demand	77 (1,283)	71 (1,183)	92 (1,533)	74 (1,233)	78 (1,300)	89 (1,483)	79 (1,317)	88.8
	輸出 Export	431 (7,183)	516 (8,600)	454 (7,567)	392 (6,533)	274 (4,567)	274 (4,567)	145 (2,417)	52.9
	計 Total	508 (8,467)	587 (9,783)	546 (9,100)	466 (7,767)	352 (5,867)	363 (6,050)	224 (3,733)	61.7
糸類計 Total	内需 Domestic Demand	167 (2,783)	177 (2,950)	210 (3,500)	146 (2,433)	162 (2,700)	159 (2,650)	135 (2,250)	84.9
	輸出 Export	1,488 (24,800)	1,353 (22,550)	1,130 (18,833)	1,174 (19,567)	1,150 (19,167)	995 (16,583)	769 (12,817)	77.3
	計① Total①	1,655 (27,583)	1,530 (25,500)	1,340 (22,333)	1,320 (22,000)	1,312 (21,867)	1,154 (19,233)	904 (15,067)	78.3
副蚕糸 Secondary Silk Yarn	内需 Domestic Demand	264	123	43	84	72	76	49	64.5
	輸出 Export	217	386	295	241	256	182	147	80.8
	計② Total②	481	509	338	325	328	258	196	76.0
	②/①	29.1	33.3	25.2	24.6	25.0	22.4	21.7	

資料：ブラジル製糸協会

注：俵換算は、合計で一致しない場合がある。

Source: ABRASSEDA

Note: Bale value may not add up.

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2010 年 3 月号 NO.11 平成 22 年 3 月 1 日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず